

# R 7 年度 竹ヶ島四阿新設工事

図 面 リ ス ト					
図 番	名 称	図 番	名 称	図 番	名 称
A - 00	表紙・図面リスト				
A - 01	特記仕様書（１）				
A - 02	特記仕様書（２）				
A - 03	特記仕様書（３）				
A - 04	特記仕様書（４）				
A - 05	附近見取図				
A - 06	配置図・平面図				
A - 07	屋根伏図				
A - 08	立面図				
A - 09	断面図				
A - 10	断面詳細図				
A - 11	部分詳細図（１）				
A - 12	部分詳細図（２）				
S - 01	伏図				
S - 02	構造詳細図				
S - 03	軸組図				

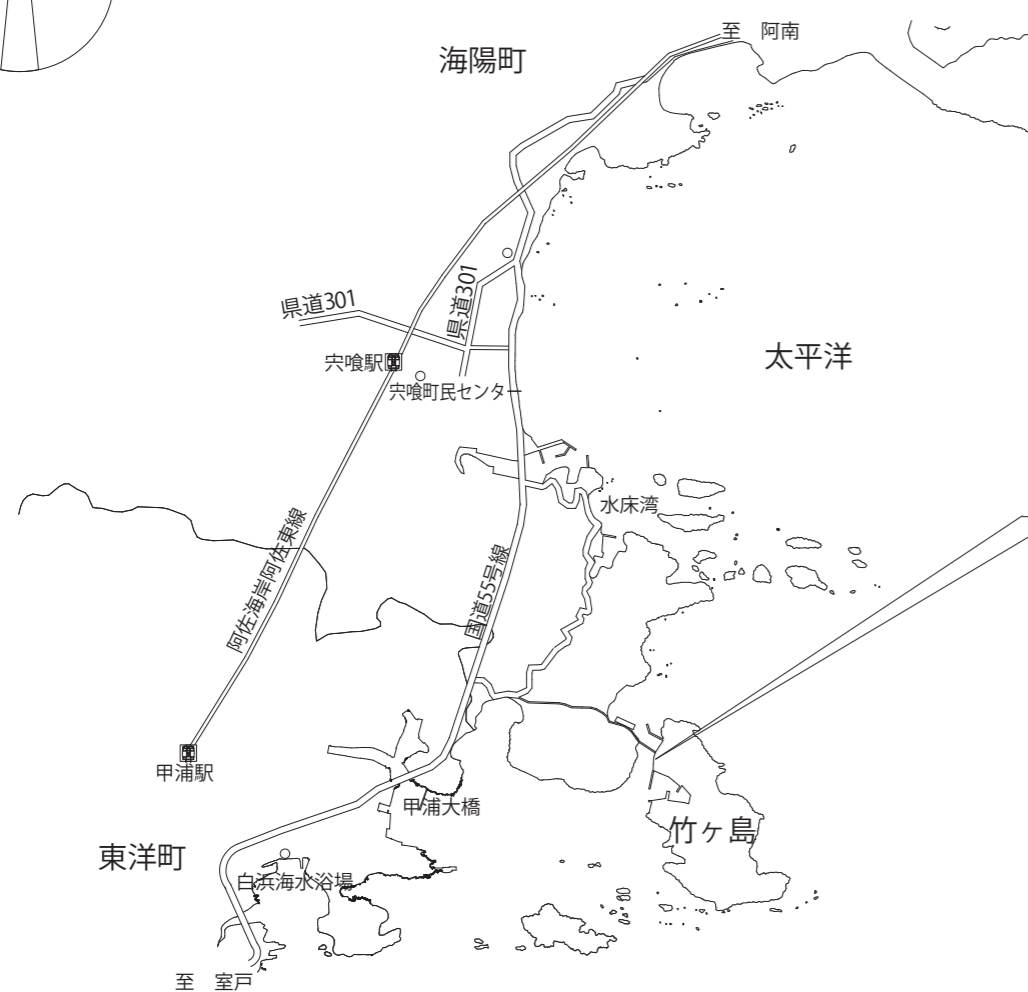
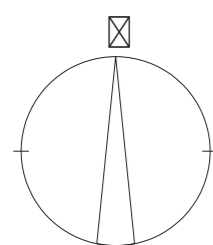
工 事 概 要			章	適用可否	項 目	特 記 事 項	章	適用可否	項 目	特 記 事 項				
1. 工事名称	令和7年度 竹ヶ島四阿新設工事		1章 一般共通事項	○	7. 施工中の安全確保	<p>◎受注者は、工事箇所及びその周辺にある地上地下の既設構造物に対し、支障を及ぼさないような措置を施さなければならない。万一、損傷を与えた場合は、ただちに監督員に報告するとともに、施設の運営に支障がないよう、受注者の負担でその都度補修又は補償すること。</p> <p>◎受注者は、重量が100kg以上のものを貨物自動車に積み込む作業（ロープ掛けの作業及びシート掛けの作業を含む。）又は貨物自動車から卸す作業（ロープ解きの作業及びシート外しの作業を含む。）を行うときは、当該作業を指揮する者を定め、監督員に報告しなければならない。</p> <p>◎受注者は、機械等を貨物自動車に積み込む作業又は貨物自動車から卸す作業を行う場合は、当該作業を指揮する者を定め、指揮者の合図により行わなければならない。また、作業状況について、写真等の資料を整備及び保管し、監督員の請求があったときは、直ちに提示しなければならない。</p> <p>◎受注者は、輸送経路等において上空施設への接触事故を防止するため、重機回送時の高さ、移動式クレーンのブームの格納、ダンプトラックの架台の下ろし等について、走行前に複数の作業員により確認しなければならない。</p> <p>◎受注者は、トラック（クレーン装置付）を使用する場合は、上空施設への接触事故防止装置（ブームの格納忘れを防止（警報）する装置、ブームの高さを制限する装置等）付きの車両を原則使用しなければならない。なお、使用できない場合は事前に監督員と協議を行うこと。</p> <p>◎休日、夜間に作業を行う時は、事前に「休日・夜間作業届」を監督員に提出すること。</p> <p>◎受注者は、工事期間中安全監視を行い、工事区域及びその周辺の監視あるいは連絡を行い、安全を確保するとともに工事現場における盗難防止の観点から、資機材の保管状況等についても併せて確認すること。また、監督員から「資機材保管計画書」（自由様式）の提出を求められた場合には、速やかに提出すること。</p> <p>◎受注者は、高さが2m以上の箇所で行う場合は、墜落防止に留意し、作業日毎に「墜落防止チェックシート」を活用して点検を行い、その記録を保管すること。</p> <p>◎仮囲いを設置する場合は、設置後に「営繕課発注現場安全再確認シート」を活用して点検を行い、その記録を保管すること。</p> <p>◎上下作業や直下階の施設を利用しながらの直上階（天井）のスラブはつり工事は、原則禁止とする。やむを得ず行う場合は、飛来落下の危険を生じるおそれがあるため、適切な防護措置を講じ安全確保を図り、施工手順について監督員の承諾を得たうえで、指定された時間に行うこと。</p> <p>◎受注者は、足場を設置する場合は組立、解体時において、作業前に施工手順を確認し、倒壊や資材落下に対する措置を講じなければならない。特に、飛来落下の恐れのある巾木やメッシュシート等の資機材については、足場の上に仮置きせず、設置又は荷下ろしするまでは、番線等により固定を行うこと。また、強風、大雨、大雪等の悪天候のため、作業の実施について危険が予想されるときは、作業を中止すること。</p> <p>◎作業にあたって労働災害、公衆災害の事故リスクと対応方法について県監督員と協議すること。</p> <p>◎既設配管等を破損させた場合の停電、断水等の影響範囲及び破損防止のための対策について関係者と協議すること。</p> <p>◎事故により、停電、断水等が発生することを考慮し、施設休業日に作業するなど、作業日を施設管理者と協議すること。</p> <p>◎給水管近傍の作業で給水管を破損する恐れがある場合は、給水バルブの止水状況を確認するとともに、事故による漏水に備えて直下階や近傍の重要備品について養生や移設について協議すること。</p> <p>◎輸送災害の防止 受注者は、工事用車両による土砂、工事用資材、機械等の輸送を伴う場合は、関係機関と打合せを行い、交通安全に関する担当者、輸送経路、輸送期間、輸送方法、輸送担当者、交通誘導員の配置、標識、安全施設等の設置場所その他安全輸送上の事項について計画を立て災害の防止を図らなければならない。特に、輸送経路にある既設構造物に対して損害を与えるおそれがある場合は、当該物件およびその位置と必要な措置について工事着手前に監督員に報告しなければならない。</p> <p>◎過積載による違法運行の防止 受注者は、過積載による違法運行の防止に関し、特に次の事項について留意し、下請負業者を指導すること。 ・積載重量制限を超えた土砂等の積み込みは行わないこと ・さし枠装備車、不表示車は使用しないこと ・過積載車両、さし枠装備車、不表示車から土砂等の引き渡しを受けないこと ・建設発生土の処理及び骨材の購入に当たっては、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害さないこと ・過積載による違法通行により、逮捕または起訴された建設業者は、指名停止措置を講ずる場合がある</p> <p>◎発生材の処理等は、次により適正に行う。 (1) 工事による発生材のうち、文化財保護法に基づく物及び有価材と判断される物については、報告及び引き渡しを要する。 (2) 上記以外の発生材は、建設工事に係る資材の再生資源化等に関する法律、資材の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設副産物適正処理推進要綱その他関係法令等に従い処理すること。受注者は、工事で発生する産業廃棄物を保管する場合、または自ら運搬する場合等においては、 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の規定を遵守すること。図書に表示のないものについては、監督員に報告し指示を仰ぐこと。 (3) 産業廃棄物の種類ごとの処分場については、各専門特記仕様書の1章一般共通事項「産業廃棄物の処理」又は「発生材の処理等」による。 (4) 建設発生土の処理については、各専門特記仕様書の1章一般共通事項「建設発生土の処理」による。 (5) 解体前に、照明器具、変圧器及び進相コンデンサのPCBの有無を調査し、有れば、監督員の指示に従うこと。 (6) 空調機等の整備や撤去処分を行う場合は、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律をはじめとする関係法令に基づき、作業や手続きを行う。家電リサイクル法に該当する機器については、家電リサイクル法により処理すること。 (7) 受注者は、 建設副産物が搬出される工事にあたっては、建設発生土は建設発生土搬出調査様式3）、産業廃棄物は（産業廃棄物管理票（マニフェスト）により、適正に処理されているか確認するとともに、監督員に建設発生土搬出調査を提出しなければならない。なお、監督員等の指示があった場合は直ちに産業廃棄物管理票の写しを提示しなければならない。</p>	○	9. 発生材の処理等	<p>◎建設リサイクル法通知済証の掲示 受注者は、建設リサイクル法に基づく対象建設工事（特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が建設リサイクル法施行令で定める基準以上のもの）においては、工事現場の公衆の見やすい場所に工事着手日までに「建設リサイクル法通知済証」を掲示し、工事しゅん工検査が終了するまで存置しておかななければならない。 また、「建設リサイクル法通知済証」掲示後の全量写真は電子納品の対象書類とし、「徳島県電子納品運用ガイドライン【建築工事編】」に基づき提出すること。なお、「建設リサイクル法通知済証」は契約締結後から工事着手日までの期間に発注者から支給することとする。</p> <p>◎受領書の交付 受注者は、土砂を再生資源利用計画書に記載した搬入元から搬入したときは、法令等に基づき、速やかに受領書を搬入元に交付しなければならない。</p> <p>◎再生資源利用促進計画書を作成する上での確認事項等 受注者は、再生資源利用促進計画書の作成に当たり、建設発生土を工事現場から搬出する場合は、工事現場内の土地の掘削その他の形質の変更に関して発注者等が行った土壌汚染対策法等の手続き状況や、搬出先が盛土規制法の許可地等であるなど適正であることについて、法令等に基づき確認しなければならない。 また、確認結果は再生資源利用促進計画書に添付し監督員に提出するとともに、工事現場において公衆の見やすい場所に掲げなければならない。</p> <p>◎建設発生土の運搬を行う者に対する通知 受注者は、建設現場等から土砂搬出を他の者に委託しようとするとき、特記に土工事の記載がある場合は「建設発生土の処理」に定められた事項等（搬出先の名称及び所在地、搬出量）と、前項で行った確認結果を、委託した搬出者に対して、法令等に基づいて通知しなければならない。</p> <p>◎建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求等 受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画書に記載した搬出先へ搬出したときは、法令等に基づき、速やかに搬出先の管理者に受領書の交付を求め、受領書に記載された事項が再生資源利用促進計画書に記載した内容と一致することを確認するとともに、監督員に写しを提出しなければならない。</p> <p>◎本工事に使用する建築材料、設備機材等（以下「建材等」という）は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとする。</p> <p>◎受注者は、建材等の発注の際には、発注前に、品質及び性能に関して記載された工種別施工計画書及びその証明となる資料を監督員へ提出しなければならない。ただし、設計図書に定め るJIS又はJASの材料で、JIS又はJASのマーク表示のあるものを使用する場合又はあらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。なお、各専門特記仕様書中、「評価名簿による」と記載されているものは、一般社団法人公共建築協会発行の「建築材料等評価名簿（最新版）」及び「設備機材等評価名簿（最新版）」記載品を指すものとする。</p> <p>◎県産木材の原則使用 (1) 受注者は、工事目的物及び指定仮設で木材を使用する場合並びにコンクリート打設用型枠を使用する場合、原則として県産木材を使用しなければならない。ただし、特段の理由がある場合にはこの限りでない。</p> <p>◎製材等（製材、集成材、合板、単板積層材）、フローリング、再生木質ボード（パーティクルボード、繊維板、木質系セメント板）については、合法性に係る確認（「産地認証」及び「品質認証」を含む。）が行われたものを使用する。ただし、機能上、需給上など正当な理由により確保が困難であり、使用できない場合には監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。 また、それらの木質又は紙の原料となる原木についての合法性に係る確認は、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン（平成18年2月15日）」に準拠して行うものとし、監督員に合法証明書を提出するものとする。ただし、平成18年4月1日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成18年4月1日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成18年4月1日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法な木材であることの証明は不要とする。</p> <p>◎標仕等に記載されていない特別な材料の仕様・工法は、監督員の承諾を受けて、当該製品の仕様及び指定工法による。</p> <p>◎県内企業調達建材等の優先使用 受注者は、徳島県内に主たる営業所を有する者から調達した建材等（以下、「県内企業調達建材等」という。）を優先して使用するよう努めなければならない。また、県内企業調達建材等の別を工種別施工計画書に記載するものとする。 なお、県内企業調達建材等以外を使用する場合は、県内企業調達建材等を使用しない理由を工種別施工計画書に記載し、監督員の承諾を得なければならない。</p> <p>◎県内産再生砕石の原則使用 受注者は、再生砕石を使用する場合、県内の再資源化施設（廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年第15条第1項に基づく許可を有する施設（同法第15条の2の6第1項に基づく変更の許可において同じ。））で製造された再生砕石を原則として使用しなければならない。</p>					
2. 工事場所	徳島県海部郡海陽町穴喰浦字竹ヶ島													
3. 建物概要	建物名称	令和7年度 竹ヶ島四阿新築工事												
	構造・規模	木造 平屋建												
	建築面積	13.24 (m <sup>2</sup> )												
	延床面積	13.24 (m <sup>2</sup> )												
4. 工事種目	建築一式工事													
5. その他														
建 築 工 事 仕 様 書			1章 一般共通事項	○	8. 交通安全管理	○	9. 発生材の処理等	○	10. 材料・製品等					
章	適用可否	項 目												
1章 一般共通事項	○	1. 適用基準												
	○	2. 優先順位												
	○	3. 工程表												
	○	4. 工事の着手												
	○	5. 施工計画書等												
	○	6. 電気保安技術者等												
	○	7. 施工中の安全確保												
縮尺 A2：100％ A3：70.7％			海陽町		工事名称 令和7年度 竹ヶ島四阿新設工事		図面番号 A - 01							
			設計 R7.12		竣工		図面名称 建築特記仕様書（I）		縮尺 I：NON					

章 適用可否		項 目	特 記 事 項	章 適用可否	項 目	特 記 事 項	章 適用可否	項 目	特 記 事 項																																																																								
1章 一般共通事項	○	11. 化学物質を発散する建築材料等	◎本工事に使用する建築材料は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の (1) から (5) を満たすものとする。 (1)合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗材は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 (2)保温材、緩衝材、断熱材は、ホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 (3)接着剤は、フタル酸ジ-ノ-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 (4)塗料（塗り床を含む）は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 (5)①②、③及び④の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。	1章 一般共通事項	○	17. 完成図等	◎電子納品：対象  ◎受注者は、原則として「徳島県電子納品運用ガイドライン【建築工事編】」に基づいて調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品（以下「電子納品」という。）すること。  ◎提出書類 ・竣工図（製本3部、電子データ2部）（サイズ：監督員から別途指示がある場合を除き、原 図版とする） ・工事写真（写真帳1部（着手前及び完成写真）、電子データ2部） ・使用材料一覧表（4部（うち3部は竣工図表紙裏面に貼付）、電子データ2部） ・保全に関する資料  ◎しゅん工図は関係図面（データ貸与）を修正して作成すること。 しゅん工図データは、関係図面（データ貸与）を修正して作成し、PDF形式、SFC形式及びオリジナル形式をCD-R等に保存する。  ◎工事写真の電子データは完成写真、着手前、資機材、施工状況の順に整理する。 完成写真については、工事目的物の状態が、資機材、施工状況等については、不可視部分の出来形が写真で的確に確認できること。  ◎工事写真の撮影は、国土交通省大臣官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領」によること。 <table><tr><td>区 分</td><td>サ イ ズ</td></tr><tr><td>着 手 前</td><td>カラー、手紙版又はサービスサイズ</td></tr><tr><td>施 工 中</td><td>カラー、手紙版又はサービスサイズ</td></tr><tr><td>完 成 写 真</td><td>カラー、手紙版又はサービスサイズ</td></tr></table> ◎工事完成撮影は、別途指定がある場合を除き、専門家によらないものとする。  ◎既存埋設管等の状況について、現場と図面の相違が発覚した場合は竣工図に反映させること。	区 分	サ イ ズ	着 手 前	カラー、手紙版又はサービスサイズ	施 工 中	カラー、手紙版又はサービスサイズ	完 成 写 真	カラー、手紙版又はサービスサイズ	○	3. 産業廃棄物の処理	◎産業廃棄物の種類ごとに次の処分場を指定する。 (注)表中「優良」欄に丸印の入っている業者は、「徳島県優良産業廃棄物処理業者の認定業者」であることを示す。 <table><tr><th>種 類</th><th>処分許可業者の会社名 (処分区分)</th><th>優良</th><th>所 在 地 処 分 地</th><th>運搬距離 (km)</th><th>処分費 (税抜、円)</th><th>単位</th></tr><tr><td>コンクリート (有筋)</td><td>(有) 青藍 (中間処分)</td><td></td><td>阿南市桑野町尾花1117番地 阿南市桑野町尾花1117番地</td><td>51.8</td><td>700</td><td>t</td></tr><tr><td>コンクリート (無筋)</td><td>(有) 青藍 (中間処分)</td><td></td><td>阿南市桑野町尾花1117番地 阿南市桑野町尾花1117番地</td><td>51.8</td><td>700</td><td>t</td></tr><tr><td>アスファルト</td><td>(有) 青藍 (中間処分)</td><td></td><td>阿南市桑野町尾花1117番地 阿南市桑野町尾花1117番地</td><td>51.8</td><td>700</td><td>t</td></tr><tr><td>金属 (処分)</td><td>(株) 旭金属</td><td>○</td><td>徳島市東沖洲1丁目12 徳島市東沖洲1丁目12</td><td>82.8</td><td>0</td><td>t</td></tr><tr><td>木材</td><td>(有) 徳島興産</td><td>○</td><td>徳島市津田海岸町2番90号 徳島市津田海岸町2番90号</td><td>80.3</td><td>10,000</td><td>t</td></tr><tr><td>廃プラ</td><td>(株) 明和クリーン</td><td></td><td>三好市山城町寺野字大休場956 三好市山城町寺野字大休場956</td><td>177</td><td>16,000</td><td>m3</td></tr><tr><td>汚泥</td><td>宮崎基礎建設（株）</td><td>○</td><td>鳴門市大麻町美保字津久田61番地1 鳴門市大麻町美保字津久田4-1、5-7</td><td>98.2</td><td>13,500</td><td>t</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種 類	処分許可業者の会社名 (処分区分)	優良	所 在 地 処 分 地	運搬距離 (km)	処分費 (税抜、円)	単位	コンクリート (有筋)	(有) 青藍 (中間処分)		阿南市桑野町尾花1117番地 阿南市桑野町尾花1117番地	51.8	700	t	コンクリート (無筋)	(有) 青藍 (中間処分)		阿南市桑野町尾花1117番地 阿南市桑野町尾花1117番地	51.8	700	t	アスファルト	(有) 青藍 (中間処分)		阿南市桑野町尾花1117番地 阿南市桑野町尾花1117番地	51.8	700	t	金属 (処分)	(株) 旭金属	○	徳島市東沖洲1丁目12 徳島市東沖洲1丁目12	82.8	0	t	木材	(有) 徳島興産	○	徳島市津田海岸町2番90号 徳島市津田海岸町2番90号	80.3	10,000	t	廃プラ	(株) 明和クリーン		三好市山城町寺野字大休場956 三好市山城町寺野字大休場956	177	16,000	m3	汚泥	宮崎基礎建設（株）	○	鳴門市大麻町美保字津久田61番地1 鳴門市大麻町美保字津久田4-1、5-7	98.2	13,500	t							
	区 分	サ イ ズ																																																																															
	着 手 前	カラー、手紙版又はサービスサイズ																																																																															
	施 工 中	カラー、手紙版又はサービスサイズ																																																																															
	完 成 写 真	カラー、手紙版又はサービスサイズ																																																																															
種 類	処分許可業者の会社名 (処分区分)	優良	所 在 地 処 分 地	運搬距離 (km)	処分費 (税抜、円)	単位																																																																											
コンクリート (有筋)	(有) 青藍 (中間処分)		阿南市桑野町尾花1117番地 阿南市桑野町尾花1117番地	51.8	700	t																																																																											
コンクリート (無筋)	(有) 青藍 (中間処分)		阿南市桑野町尾花1117番地 阿南市桑野町尾花1117番地	51.8	700	t																																																																											
アスファルト	(有) 青藍 (中間処分)		阿南市桑野町尾花1117番地 阿南市桑野町尾花1117番地	51.8	700	t																																																																											
金属 (処分)	(株) 旭金属	○	徳島市東沖洲1丁目12 徳島市東沖洲1丁目12	82.8	0	t																																																																											
木材	(有) 徳島興産	○	徳島市津田海岸町2番90号 徳島市津田海岸町2番90号	80.3	10,000	t																																																																											
廃プラ	(株) 明和クリーン		三好市山城町寺野字大休場956 三好市山城町寺野字大休場956	177	16,000	m3																																																																											
汚泥	宮崎基礎建設（株）	○	鳴門市大麻町美保字津久田61番地1 鳴門市大麻町美保字津久田4-1、5-7	98.2	13,500	t																																																																											
○	12. 施工	◎設計図書に疑義が生じたり、現場の納まり又は取合い等の関係で設計図書によることが困難又は不都合な場合が生じたときは、機仕記載の「疑義に対する協議等」による。  ◎工事現場に監督員は常駐できないので、疑問な点、その他打合せ決定を要する事項は、監督員の出向いた時、又は営繕課へ問い合わせ、工事に遺漏のないようにすること。  ◎品質管理は、適切な時期に品質計画に基づき、確認、試験又は検査を行うこと。結果が管理値を外れるなど疑義が生じた場合は、品質計画にしたがって適切な処理を施すこと。また、その原因を検討し、再発防止のための必要な処置をとること。  ◎施工にあたっては、設計図書に従って忠実に施工すること。不都合な工法等を発見した場合は、工事が進行済みであっても根本的な手直しを命ずるので、注意して施工すること。手直し工事は、受注者の責任において実施し、それに要する費用は受注者の負担とする。  ◎本工事の施工及び管理にあたり法規上必要となる有資格者については、工事着手前に資格者名簿及びその証明書類等を監督員に提出すること。  ◎設計図書（各施工計画書を含む）に定められた工程が完了した時、報告書を提出し、監督員の検査等を受け、承諾を受けて次の工程に進むこと。  ◎試験等によらなければ確認できない工事（製品）については、試験等計画書（施工計画書に記載）を提出し、監督員に記載）を提出し、監督員の承諾を受け試験を行い、その結果を報告し承諾を得ること。	○	18. 火災保険	◎火災保険 本工事の着手に際し、火災保険等（火災保険、建設工事保険その他の保険（これに準ずるものを含む。））を請負額に応じて付保する。（標準請負契約約款 第55条） (1)対象物 工事目的物及び工事材料（支給材料を含む）について付保する。 (2)付保除外工事 次に掲げる単独工事については、付保を除外できる。 ・杭及び基礎工事 ・コンクリート躯体工事 ・屋外付帯工事 ・その他実状を判断のうえ必要がないと認めた場合（外壁補修工事等） (3)付保する時期及び金額 鉄筋コンクリート造の場合は躯体工事完了時に、木造及び鉄骨造の場合は基礎工事完了時に、 請負金額相当額を付保する。また、模様替え工事等については、工事着手時に請負金額相当 額を付保する。 (4)保険終期 工事完成期日に14日を加えた期日とする。なお、工期延伸した場合には保険の期間も延長する。 (5)その他 ・付保する時期以降に出来高払を行う場合は、受注者は保険契約の証券の写しを出来高払の書類に添付する。 ・建設工事保険に付保した場合は、火災保険に付保したものとみなす。	○	4. 建設発生土の処理	◎建設発生土の処理については、「第3章 土工事」に記載している。なお、場外搬出が指定されている場合において、指定された処分場以外で処分する場合は監督員の承諾を得ること。なお、増額変更の対象とはしない。																																																																									
○	13. 建設機械等	◎排出ガス対策型建設機械 本工事に使用する土工機械は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3.10.8 建設省経機発第249号 最終改正平成14.4.1国総施第225号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械とする。ただし、排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、又はこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明により評価された排出ガス浄化装置を装着することで排出ガス対策型建設機械と同等とみなすが、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。なお、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の全景及び型番等が分かる写真を監督員に提出するものとする。  ◎低騒音・低振動型建設機械 本工事で使用する建設機械は、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程（国土交通省告示 平成13年4月9日改正）」に基づき指定された建設機械を使用するものとする。現場代理 人は、施工現場において使用する建設機械の全景及び型番等、同規程に基づき指定された建設機械であることが分かる写真を監督員に提出するものとする。ただし、同規程に記載されていない機種、規格の建設機械により施工する場合はこの限りでない。なお、同規程に基づき指定された建設機械を現場に供給するのが著しく困難な場合は、監督員と協議する。ただし、騒音規制法、徳島県公害防止条例等の関係法令を遵守するものとする。  ◎特定自主検査 本工事で使用する建設機械（労働安全衛生法により特定自主検査が義務づけられている建設機械）は、1年以内毎年1回特定自主検査を実施済みの機械を使用し、その検査証明書（検査記録表）の写しを使用工程の施工計画書に添付し提出すること。  ◎不正軽油の使用禁止 受注者は、ディーゼルエンジン仕様の車両及び建設機械等を使用する場合は、地方税法（昭和25年法律第226号）に違反する軽油等を燃料として使用してはならない。 また、受注者は、県の徴税吏員が行う使用燃料の採取調査に協力しなければならない。	○	19. 暴力団からの不当要求又は工事妨害の排除	(1)受注者は、工事の施工に関し、暴力団等からの不当要求又は工事妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合（(2)に規定する場合は、下請負人から報告があったとき）には、その旨を直ちに発注者に報告するとともに、併せて所轄の警察署に届け出なければならない。 (2)受注者は、本工事の一部を下請に付する場合、下請工事の施工に関して下請負人が暴力団等からの不当介入を受けたときは、受注者にその旨を報告することを義務付けなければならない。 (3)受注者は、発注者及び所轄の警察署と協力して不当介入の排除対策を講じなければならない。 (4)受注者は、排除対策を講じたにもかかわらず、工期に遅れが生じるおそれがある場合には、発注者と工程に関する協議を行い、その結果、工期内に工事が完成しないと認められる場合は、「徳島県公共工事標準請負約款」（以下「約款」という。）第22条の規定により、発注者に工期延長の請求を行わなければならない。 (5)受注者は、暴力団等から不当介入による被害を受けた場合は、その旨を直ちに報告し、被害届を速やかに所轄の警察署に提出しなければならない。 (6)受注者は、前項被害により、工期に遅れが生じるおそれがある場合は、発注者と工程に関する協議を行い、その結果、工期に遅れが生じると認められた場合は、約款第22条の規定により、発注者に工期延長の請求を行わなければならない。	○	5. 他工事との取り合い	◎他工事との取り合い区分 <table><tr><th></th><th>建築工事</th><th>電気工事</th><th>管 工 事</th><th>空調工事</th><th>そ の 他</th></tr><tr><td>梁、床スリープ入れ</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>同上穴埋補修</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>スリープ開口補強(鉄筋)</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>同上(リンブレン等)</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		建築工事	電気工事	管 工 事	空調工事	そ の 他	梁、床スリープ入れ		○	○			同上穴埋補修		○	○			スリープ開口補強(鉄筋)	○					同上(リンブレン等)	○																																															
	建築工事	電気工事	管 工 事	空調工事	そ の 他																																																																												
梁、床スリープ入れ		○	○																																																																														
同上穴埋補修		○	○																																																																														
スリープ開口補強(鉄筋)	○																																																																																
同上(リンブレン等)	○																																																																																
○	14. 工事看板等	◎工事現場には、工事看板を監督員の指示に従って見やすい場所に設けること。  ◎受注者は、本工事において使用する工事看板・バリケード等については、県産木材を用いた木製品を優先して使用するよう努めなければならない。県産木材を購入した場合、受注者は、工事完了後「任意仮設における 県内産木材購入実績報告書」を監督員へ任意で提出すること。	1章 一般共通事項	○	1. 施工条件	・工程については、施設管理者と協議の上決定すること。 ・施設の使用に影響のある、騒音、振動、粉塵等を伴う作業は平日の授業中は原則施工できない。また、休日においても施設管理者より作業中止の要望がある場合は、作業の中止を行う場合がある。 ・その他の詳細な施工条件については、実施工程表及び総合施工計画書の作成時に施設管理者と協議の上決定し、適宜相互に日程の調整及び確認を行う。 ・工事の施工に当たっては工事進入ゲートに交通整理員を配置し、一般交通等に支障を及ぼさないように充分注意し施工するものとする。 ・海南小学校の児童の通学路は、交通整理員を配置し、児童の通学に安全を確保するものとする。 ・隣接道路は通学路であるため、登下校時間帯には工事車輛は通行しないものとする。 ・本工事の外部足場に落下防止として図示の範囲にメッシュシート養生または金網養生を設置するものとする。	○	7. 技能士の適用	◎技能士の適用については、 次の技能検定作業（以下、「作業」という。）のうち各工事毎に適用する作業を指定するものとする。 技能士は、 職業能力開発促進法による一級技能士又は二級技能士の資格を有する者とし、 資格を証明する資料を監督員に提出すること。 技能士は、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業をするとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。技能士は、氏名、検定職種、技能士番号等県が指定した内容を記載した名札等により、資格を明示するものとする。 なお、指定のない作業についてもその活用を図るよう努めることとする。  ○印 … 適用作業 <table><tr><th>工事種目</th><th>技能検定職種</th><th>技 能 検 定 作 業</th></tr><tr><td>仮設</td><td>とび</td><td>・ とび作業</td></tr><tr><td>鉄筋</td><td>鉄筋施工</td><td>・ 鉄筋組立て作業</td></tr><tr><td>コンクリート</td><td>コンクリート圧送施工</td><td>・ コンクリート圧送工事作業</td></tr><tr><td>型枠</td><td>型枠施工</td><td>・ 型枠工事作業</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>木</td><td>建築大工</td><td>・ 大工工事作業</td></tr><tr><td>屋根及びとい</td><td>建築板金</td><td>・ 内外装板金作業</td></tr><tr><td></td><td>かわらぶき</td><td>・ かわらぶき作業</td></tr><tr><td>金属</td><td>建築板金</td><td>・ 内外装板金作業</td></tr><tr><td>左官</td><td>左官</td><td>・ 左官作業</td></tr><tr><td>塗装</td><td>塗装</td><td>・ 建築塗装作業</td></tr><tr><td>配管</td><td>配管</td><td>・ 建築配管作業</td></tr><tr><td>植栽</td><td>造園</td><td>・ 造園工事作業</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	工事種目	技能検定職種	技 能 検 定 作 業	仮設	とび	・ とび作業	鉄筋	鉄筋施工	・ 鉄筋組立て作業	コンクリート	コンクリート圧送施工	・ コンクリート圧送工事作業	型枠	型枠施工	・ 型枠工事作業				木	建築大工	・ 大工工事作業	屋根及びとい	建築板金	・ 内外装板金作業		かわらぶき	・ かわらぶき作業	金属	建築板金	・ 内外装板金作業	左官	左官	・ 左官作業	塗装	塗装	・ 建築塗装作業	配管	配管	・ 建築配管作業	植栽	造園	・ 造園工事作業																														
工事種目	技能検定職種	技 能 検 定 作 業																																																																															
仮設	とび	・ とび作業																																																																															
鉄筋	鉄筋施工	・ 鉄筋組立て作業																																																																															
コンクリート	コンクリート圧送施工	・ コンクリート圧送工事作業																																																																															
型枠	型枠施工	・ 型枠工事作業																																																																															
木	建築大工	・ 大工工事作業																																																																															
屋根及びとい	建築板金	・ 内外装板金作業																																																																															
	かわらぶき	・ かわらぶき作業																																																																															
金属	建築板金	・ 内外装板金作業																																																																															
左官	左官	・ 左官作業																																																																															
塗装	塗装	・ 建築塗装作業																																																																															
配管	配管	・ 建築配管作業																																																																															
植栽	造園	・ 造園工事作業																																																																															
○	15. 仮設トイレ	◎受注者は仮設トイレを設置する場合、次のとおりとしなければならない。 ただし、特段の理由がある場合はこの限りではない。 ・当初請負対象金額（設計金額）5千万円未満の工事 原則として「洋式トイレ」を設置しなければならない。また、現場従事者に女性が含まれる場合は、原則として「女性専用トイレ（快適トイレ）」を設置しなければならない。 ・当初請負対象金額（設計金額）5千万円以上の工事 原則として「快適トイレ」を設置しなければならない。また、現場従事者に女性が含まれる場合は、原則として「女性専用トイレ（快適トイレ）」を設置しなければならない。 受注者は、仮設トイレを設置した場合、「仮設トイレ設置報告書」を監督員に提出しなければならない。  なお、洋式トイレとは、和式トイレの便座部分を洋式化したトイレのこと。 快適トイレとは、洋式トイレのうち、防臭対策・施錠の強化などが実施された、女性が利用しやすい仮設トイレのこと。	○	2. 交通誘導警備員	◎交通誘導警備員 交通誘導警備員については、警備業法に基づ（警備員とし、60日間配置する ・本工事は、警備員等の検定等に関する規則第1条第4号により規定された交通誘導警備業務を行う場所に一級又は二級の検定合格警備員の配置が（ 義務付けられている ・（義務付けられていない））。 ・警備員は、延60人（昼60人、夜0人：うち検定合格警備員0人）を見込んでいる。 ・警備業法を遵守するとともに、受注者は交通誘導警備員の配置計画書及び合格証明書の写し等資格要件の確認ができる資料を事前に監督員へ提出すること。 ・配置された検定合格警備員は、業務に従事している間は合格証明書を携帯し、かつ、監督員等の請求があるときは、これを提示すること。 ・受注者は、発注者が行う交通誘導警備員勤務実績調査の実施に協力しなければならない。 また、対象工事の一部について下請負契約を締結する場合は、当該下請負工事の受注者（当該下請負工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）も同様の義務を負う旨を定めなければならない。 ・受注者は、「交通誘導警備員勤務実績報告書」を作成し、勤務実績が確認できる資料（勤務伝票の写し）とともに、1月毎に監督員へ1部提出しなければならない。																																																																												
○	16. 設計変更箇所確認	◎設計事務所による工事監理がある場合、受注者は、工事監理業務受注者が作成する設計変更箇所一覧表の内容について、監督員、工事監理業務受注者とともに定期的に確認すること。 また、工事しゅん工前には全ての設計変更箇所及び内容を監督員、工事監理業務受注者とともに、書面により確認すること。																																																																															
縮尺 A2：100％ A3：70.7％				海陽町		工事名称 令和7年度 竹ヶ島四阿新設工事		図面番号 A - 02																																																																									
				設計 R7.12		竣工		図面名称 建築特記仕様書（2）																																																																									
								縮尺 1：NON																																																																									

章	適用可否	項 目	特 記 事 項	章	適用可否	項 目	特 記 事 項	章	適用可否	項 目	特 記 事 項																																														
2章 仮設工事	○	1. 敷地の状況確認	◎着工に先立ち、敷地境界、既存構造物、敷地の高低差、地下埋設物の確認、近隣建築物及び工物の現状確認、排水経路及び配水管の流末処理の確認並びに敷地周辺の状況を確認し、監督員に報告すること。	4章 地盤工事	○	4. 地均し	◎建物の周囲、幅2m程度を、水はけよく地均しを行う。	5章 鉄筋工事	○	1. 材料	<table><tr><td>規格番号</td><td>規格名称</td><td>種類の記号</td><td>径(mm)</td></tr><tr><td>JIS G 3112</td><td>鉄筋コンクリート用棒鋼</td><td>SD295</td><td>Ø13・Ø10</td></tr><tr><td>－</td><td>建築基準法の規定に基づき認定を受けた鉄筋</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>JIS G 3551</td><td>溶接金網及び鉄筋格子</td><td>網目の形状： 寸法：150×150</td><td>径：6φ</td></tr></table>	規格番号	規格名称	種類の記号	径(mm)	JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295	Ø13・Ø10	－	建築基準法の規定に基づき認定を受けた鉄筋	－		JIS G 3551	溶接金網及び鉄筋格子	網目の形状： 寸法：150×150	径：6φ																														
	規格番号	規格名称	種類の記号		径(mm)																																																				
	JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295		Ø13・Ø10																																																				
	－	建築基準法の規定に基づき認定を受けた鉄筋	－																																																						
	JIS G 3551	溶接金網及び鉄筋格子	網目の形状： 寸法：150×150		径：6φ																																																				
○	2. 足場等	◎仮設機材及び経年仮設機材の使用については、次の規格又は認定基準（以下「規格等」という。）に適合するものを使用すること。 ①労働安全衛生法に基づく構造規格 ②（一社）仮設工業会の認定基準 また、厚生労働省の「経年仮設機材の管理指針」に基づく（一社）仮設工業会の「適用工場制度」による登録工場及び指定工場等の活用に努めるとともに、前記規格等に定めるもの以外の使用に当たってはあらかじめ強度等を確認した書類を監督員に提出し、承諾を得ること。  ◎労働安全衛生法第88条に基づき、労働安全衛生規則別表第7に掲げる機械等（組立から解体までの期間が60日未満を除く）の設置や移転、変更を行う場合は、30日前までに所轄労働基準監督署長に届け出をおこなうこと。 届け出をおこなった場合は、監督員に報告すること。 届け出不要の場合は、その旨監督員に報告すること。  ◎労働安全衛生法第88条に基づく届け出の要否に関わらず、足場を設置する場合は、使用開始前に足場チェックリストで点検した後、監督員の確認を受けること。  ◎外部足場（種類：手摺先行型枠組本足場、仕様：手摺先行型 枚布、D=90cm、シート仕様：メッシュ） ・壁つなぎ間隔（水平方向：9m以下、鉛直方向：8m以下） ・足場を設置する場合は、原則として「手すり先行工法に関するガイドライン」（標仕2.2.4）の別紙「手すり先行工法による足場の組み立て等に関する基準」の2の(2) 手すり据置方式により行うこと。 ただし監督員の承諾を得た場合は、（3）手すり先行専用足場方式により行うことができる。  ◎内部足場（種類：脚立足場、仕様： 枚布、D＝ cm） ・壁つなぎ間隔（水平方向： m以下、鉛直方向： m以下）  ◎仮囲い（仕様： ，H＝ m、L＝ m）（図示）  ◎ゲート（有 ・ 無、仕様： ）  ◎足場等の設置業者は、関連工事等の関係者に無償で使用させること。また安全管理も実施すること。  ◎足場等を無償使用する業者は、設置業者の指示に従うこと。  ◎受注者は、つり足場（ゴンドラのつり足場を除く。）、張出し足場又は高さが5メートル以上の構造の足場の組立て・解体又は変更の作業において、材料、器具、工具等を上げ、又はおろすときは、つり綱、つり袋等を労働者に使用させなければならない。また、作業主任者を選任し、その氏名、職務を掲示すること。  ◎その他  ◎監督員事務所は（ 設ける（面積 m2程度） ・（設けない））  ◎既存電力利用（ 出来る ・（出来ない））、電料料金（ 有償 ・ 無償 ） ただし、施設管理者と協議すること。  ◎既存水利用（ 出来る ・（出来ない））、用水料金（ 有償 ・ 無償 ） ただし、施設管理者と協議すること。  ◎同用地は、（ 図示の場所に ・（用意していないので業者にて））設けること。 ただし、施設管理者と協議すること。	○	5. 建設発生土の処理	◎場内敷き均しとする。  ◎場外搬出適正処分とする。 民間の残土処分場等へ搬出する場合は「徳島県生活環境保全条例」によることとし、建設発生土の発生場所ごとに、かつ4,000m3までごとに1回採取して、土壌検査を行うこととする。その他、「特定事業の許可に係る土壌検査及び水質検査の実施における留意点」による。 ただし、建設発生土の公共工事間の利用を行う場合で、担当者相互の同意が取れた場合には、分析の必要はない。  ◎土壌検査を行った結果、条例の基準に適合しない場合には、監督員と協議すること。  ◎現場内再生利用とする。  ◎発生汚泥を再生利用する場合には、「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン」に準拠し、その内容等を明記した施工計画書を監督員に提出し、承認を受けた後に施工すること。また、施工計画書の承認を受ける際には、関係部局との協議に協力すること。  ◎舗装版断りに伴い発生する排水は汚泥に該当するため、関係法令等に基づき適正に処理すること。  ◎山留めは、適切な資料に基づき構造計算を行い、安全に設置すること。また、設置期間中、周辺地域及び山留めの状況を点検するとともに、安全管理に必要な計測を行うこと。  ◎法面施工の場合（素堀り）・多段式）	○	2. 材料試験	◎材料試験は行わない。 ただし、規格証明書を提出し、監督員の承諾を得ること。  ◎鉄筋の継手は（重ね継手）・ガス圧接継手 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手 ）とする。 原則として、Ø35以上の異形鉄筋については、重ね継手を用いない。  ◎鉄筋の継手の位置は図示による。  ◎結束線の端部は内側に折り曲げる。  ◎スラブのスペーサーは鋼製を原則とし、他の箇所についても材種等について監督員の承諾を得ること。 また、鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。 ただし、地階を有しない1階土間を除く。  ◎鉄筋の90°未満の折曲げの内法直径は図示による。  ◎鉄筋の定着方法及び長さは図示による。																																																	
○	3. 監督員事務所	◎監督員事務所は（ 設ける（面積 m2程度） ・（設けない））	○	6. 建設発生汚泥の処理	◎現場内再生利用とする。	○	4. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	◎柱、梁の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、標仕表5.3.6の数値に10mmを加えた数値を標準とする。  ◎目地がある場合のかぶり厚は、目地底からの寸法とする。  ◎杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。  ◎各部の配筋は、図示による。図示されていない場合は、標仕参考図〔1節－基礎及び基礎梁の配筋〕～〔7節－梁貫通孔その他配筋〕による。  ◎形の種別は構造図による。  ◎補強形式 鉄筋コンクリート構造配筋基準図による。  ◎梁貫通補強に建設技術評価規定に基づく評価品を使用する場合は、それぞれの部分についてメーカーの構造計算書を提出し、監督員の承諾を得ること。  ◎主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督員の検査を受ける。																																																	
○	4. 工事用水、電力等	◎既存電力利用（ 出来る ・（出来ない））、電料料金（ 有償 ・ 無償 ） ただし、施設管理者と協議すること。  ◎既存水利用（ 出来る ・（出来ない））、用水料金（ 有償 ・ 無償 ） ただし、施設管理者と協議すること。	○	7. 山留め	◎山留めは、適切な資料に基づき構造計算を行い、安全に設置すること。また、設置期間中、周辺地域及び山留めの状況を点検するとともに、安全管理に必要な計測を行うこと。  ◎法面施工の場合（素堀り）・多段式）	○	5. 帯筋	◎杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。  ◎各部の配筋は、図示による。図示されていない場合は、標仕参考図〔1節－基礎及び基礎梁の配筋〕～〔7節－梁貫通孔その他配筋〕による。  ◎形の種別は構造図による。  ◎補強形式 鉄筋コンクリート構造配筋基準図による。  ◎梁貫通補強に建設技術評価規定に基づく評価品を使用する場合は、それぞれの部分についてメーカーの構造計算書を提出し、監督員の承諾を得ること。  ◎主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督員の検査を受ける。																																																	
○	5. 工事車両用駐車場 資材置場 現場事務所用地等	◎同用地は、（ 図示の場所に ・（用意していないので業者にて））設けること。 ただし、施設管理者と協議すること。	○	3. 砂利・砂・割り石及び捨コンクリート地業等	◎排水、排土等は産業廃棄物に該当するため、関係法令に基づき適正に処理すること。  ◎地盤の平板載荷試験は（行う）・行わない）。 また、試験位置は図示のとおりとする。 報告書の記載事項は、次の事項を記載する。 ①地盤工学会基準JGS 1521-2003と部分的に異なる方法を用いた場合には、その方法 ②試験方法 ③試験結果の図及び表 ④地盤反力係数 ⑤極限支持力 ⑥試験地盤の観察結果と地下水の状況 ⑦その他特記すべき事項  ◎材料は、市場品とする。  ◎砂利及び砂地業 ・砂利は、（ 切込砂利 ・（切込碎石）・（再生クラッシャーラン））とする。 <table><tr><th>種 別</th><th>使用部位</th><th>厚 さ</th><th>粒度範囲</th></tr><tr><td>切込砂利</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>切込碎石</td><td>基礎下</td><td>150</td><td>C-30</td></tr><tr><td>再生クラッシャーラン</td><td>土間下</td><td>150</td><td>RC-30</td></tr></table> ・締固めは、ランマー3回突き、振動コンパクター2回締め又は振動ローラー締めとする。締固めによる凹凸は目つぶし砂利で上均しをする。 ・厚さが300mmを越える場合は、300mmごとに締固めを行う。	種 別	使用部位	厚 さ	粒度範囲	切込砂利				切込碎石	基礎下	150	C-30	再生クラッシャーラン	土間下	150	RC-30	○	6. 梁貫通孔補強	◎形の種別は構造図による。  ◎補強形式 鉄筋コンクリート構造配筋基準図による。  ◎梁貫通補強に建設技術評価規定に基づく評価品を使用する場合は、それぞれの部分についてメーカーの構造計算書を提出し、監督員の承諾を得ること。  ◎主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督員の検査を受ける。																																	
種 別	使用部位	厚 さ	粒度範囲																																																						
切込砂利																																																									
切込碎石	基礎下	150	C-30																																																						
再生クラッシャーラン	土間下	150	RC-30																																																						
3章 土工	○	1. 根切り	◎周辺の状況、土質、地下水の状態等に適した工法を採用し、工事中の異常沈下、法面の滑動、その他による災害が発生しないよう、災害防止上必要な処置をすること。  ◎敷地内に埋設が予想される設備配管等について十分調査し、支障がないようにすること。  ◎根切り底は、地盤をかく乱しないよう、手作業（深さ30cm程度）とするか、バケットに特殊アタッチメントを取りつけた機械堀りとする。なお、かく乱した場合は、自然地盤と同等以上の強度となるように適切な処置を定め、監督職員の承諾を受ける。  ◎工事に支障を及ぼす雨水、わき水等は、適正な排水溝、集水ます等を設置し、支障がないようにすること。  ◎使用土は（ A種 ・（B種）・ C種 ・ D種 ）とし、機器により締め固める。  ◎建設発生土を搬入する場合には、土壌検査結果を添付するものとし、「徳島県生活環境保全条例」の土壌基準に適合しないものについては、搬入することができない。 ただし、次の場合は検査結果の添付の必要はない。 1) 公共工事間利用の場合で、監督員相互で同意がとれた場合 2) 購入土（切込碎石）砂、（真砂土等）である場合  ◎余盛りは、土質に応じ監督員と協議の上、余盛り高さを決定すること。  ◎六価クロム溶出試験を（行う）・行わない）。 行った場合、土壌環境基準以下であることを確認すると共に、試験結果（計量証明書）を監督員に提出するものとする。 六価クロム溶出試験は、「セメント及びセメント系固化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置」について（平成12年3月31日 建設第258号）の「六価クロム溶出試験実施要領（案）」により実施する。 土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合、試験の結果、六価クロムの溶出量が土壌環境基準を超えた場合等は、監督員と協議するものとする。	○	4. 地盤改良	◎締め固め機械の選定に当たっては、地質の状況を検討し監督員の承諾を得ること。  ◎捨コンクリートは、無筋コンクリート（スランプ15cm、設計基準強度18N/mm2）とし、厚さは 50 mmとする。  ◎床下防湿層は、ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合せ及び基礎梁際のみ込みは250mm、断熱材のある場合のみ込みは400mm以上とする。  ◎防湿層の位置は、土間スラブ又は土間コンクリートの直下とする。ただし、断熱材がある場合は、断熱材の直下とする。  ◎六価クロム溶出試験を（行う）・行わない）。 行った場合、土壌環境基準以下であることを確認すると共に、試験結果（計量証明書）を監督員に提出するものとする。 六価クロム溶出試験は、「セメント及びセメント系固化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置」（平成12年3月31日 建設第258号）の「六価クロム溶出試験実施要領（案）」により実施する。 土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合、試験の結果、六価クロムの溶出量が土壌環境基準を超えた場合等は、監督員と協議するものとする。	○	7. 配筋検査	◎コンクリートの種別 ・Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート） ・Ⅱ類（JIS A 5308への適合したコンクリート） ◎設計基準強度 <table><tr><th>コンクリートの種類</th><th>設計基準強度 F<sub>c</sub>(N/mm2)</th><th>調合管理強度 F<sub>n</sub>(N/mm2)</th><th>スランプ (cm)</th><th>強度試験の有無</th><th>種別</th><th>気乾単位容積重量 (t/m3)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>Ⅰ類</td><td>21</td><td>+S</td><td>15</td><td>有</td><td>A種</td><td>2.3</td><td>基礎(躯体)</td></tr><tr><td>Ⅰ類</td><td>18</td><td></td><td>15</td><td>無</td><td>B種</td><td>2.3</td><td>捨てコン(躯体)</td></tr><tr><td>Ⅰ類</td><td>18</td><td></td><td>15</td><td>無</td><td>B種</td><td>2.3</td><td>土間・工作物</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ◎構造体コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度（F <sub>c</sub> ）に構造体強度補正值（S）を加えた値とする。 なお、構造体強度補正值（S）は、標仕 表6.3.2によりセメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。  ◎コンクリートの強度試験 コンクリートの強度試験については、次のとおり取扱うものとする。 ・第4週強度確認 原則、第3者機関にて、主任技術者又は現場代理人会いの上、行うこと。 ただし、第3者機関以外で行う場合は、立ち会い者を定め、監督員の承認を受け、行うこととする。 なお、試験機関を選定した際には、すみやかに監督員に報告すること。  ◎骨材は、標仕6.3.1 ② による。  ◎細骨材としてフェロニッケルスラグ使用（ できる ・（できない））。  ◎細骨材に含まれる塩化量は、NaCl換算で0.04%以下とする。  ◎コンクリート中の塩化量は、0.3kg/m3以下とし、試験方法は標仕6.5.4による。	コンクリートの種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm2)	調合管理強度 F <sub>n</sub> (N/mm2)	スランプ (cm)	強度試験の有無	種別	気乾単位容積重量 (t/m3)	適用箇所	Ⅰ類	21	+S	15	有	A種	2.3	基礎(躯体)	Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	捨てコン(躯体)	Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	土間・工作物																
	コンクリートの種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm2)	調合管理強度 F <sub>n</sub> (N/mm2)	スランプ (cm)	強度試験の有無	種別	気乾単位容積重量 (t/m3)	適用箇所																																																	
	Ⅰ類	21	+S	15	有	A種	2.3	基礎(躯体)																																																	
	Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	捨てコン(躯体)																																																	
	Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	土間・工作物																																																	
○	2. 排水	◎工事に支障を及ぼす雨水、わき水等は、適正な排水溝、集水ます等を設置し、支障がないようにすること。	○	4. 地盤改良	◎締め固め機械の選定に当たっては、地質の状況を検討し監督員の承諾を得ること。  ◎捨コンクリートは、無筋コンクリート（スランプ15cm、設計基準強度18N/mm2）とし、厚さは 50 mmとする。  ◎床下防湿層は、ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合せ及び基礎梁際のみ込みは250mm、断熱材のある場合のみ込みは400mm以上とする。  ◎防湿層の位置は、土間スラブ又は土間コンクリートの直下とする。ただし、断熱材がある場合は、断熱材の直下とする。  ◎六価クロム溶出試験を（行う）・行わない）。 行った場合、土壌環境基準以下であることを確認すると共に、試験結果（計量証明書）を監督員に提出するものとする。 六価クロム溶出試験は、「セメント及びセメント系固化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置」（平成12年3月31日 建設第258号）の「六価クロム溶出試験実施要領（案）」により実施する。 土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合、試験の結果、六価クロムの溶出量が土壌環境基準を超えた場合等は、監督員と協議するものとする。	○	7. 配筋検査	◎コンクリートの種別 ・Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート） ・Ⅱ類（JIS A 5308への適合したコンクリート） ◎設計基準強度 <table><tr><th>コンクリートの種類</th><th>設計基準強度 F<sub>c</sub>(N/mm2)</th><th>調合管理強度 F<sub>n</sub>(N/mm2)</th><th>スランプ (cm)</th><th>強度試験の有無</th><th>種別</th><th>気乾単位容積重量 (t/m3)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>Ⅰ類</td><td>21</td><td>+S</td><td>15</td><td>有</td><td>A種</td><td>2.3</td><td>基礎(躯体)</td></tr><tr><td>Ⅰ類</td><td>18</td><td></td><td>15</td><td>無</td><td>B種</td><td>2.3</td><td>捨てコン(躯体)</td></tr><tr><td>Ⅰ類</td><td>18</td><td></td><td>15</td><td>無</td><td>B種</td><td>2.3</td><td>土間・工作物</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ◎構造体コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度（F <sub>c</sub> ）に構造体強度補正值（S）を加えた値とする。 なお、構造体強度補正值（S）は、標仕 表6.3.2によりセメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。  ◎コンクリートの強度試験 コンクリートの強度試験については、次のとおり取扱うものとする。 ・第4週強度確認 原則、第3者機関にて、主任技術者又は現場代理人会いの上、行うこと。 ただし、第3者機関以外で行う場合は、立ち会い者を定め、監督員の承認を受け、行うこととする。 なお、試験機関を選定した際には、すみやかに監督員に報告すること。  ◎骨材は、標仕6.3.1 ② による。  ◎細骨材としてフェロニッケルスラグ使用（ できる ・（できない））。  ◎細骨材に含まれる塩化量は、NaCl換算で0.04%以下とする。  ◎コンクリート中の塩化量は、0.3kg/m3以下とし、試験方法は標仕6.5.4による。	コンクリートの種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm2)	調合管理強度 F <sub>n</sub> (N/mm2)	スランプ (cm)	強度試験の有無	種別	気乾単位容積重量 (t/m3)	適用箇所	Ⅰ類	21	+S	15	有	A種	2.3	基礎(躯体)	Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	捨てコン(躯体)	Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	土間・工作物																	
コンクリートの種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm2)	調合管理強度 F <sub>n</sub> (N/mm2)	スランプ (cm)	強度試験の有無	種別	気乾単位容積重量 (t/m3)	適用箇所																																																		
Ⅰ類	21	+S	15	有	A種	2.3	基礎(躯体)																																																		
Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	捨てコン(躯体)																																																		
Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	土間・工作物																																																		
○	3. 埋め戻し及び盛土	◎使用土は（ A種 ・（B種）・ C種 ・ D種 ）とし、機器により締め固める。  ◎建設発生土を搬入する場合には、土壌検査結果を添付するものとし、「徳島県生活環境保全条例」の土壌基準に適合しないものについては、搬入することができない。 ただし、次の場合は検査結果の添付の必要はない。 1) 公共工事間利用の場合で、監督員相互で同意がとれた場合 2) 購入土（切込碎石）砂、（真砂土等）である場合  ◎余盛りは、土質に応じ監督員と協議の上、余盛り高さを決定すること。  ◎六価クロム溶出試験を（行う）・行わない）。 行った場合、土壌環境基準以下であることを確認すると共に、試験結果（計量証明書）を監督員に提出するものとする。 六価クロム溶出試験は、「セメント及びセメント系固化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置」について（平成12年3月31日 建設第258号）の「六価クロム溶出試験実施要領（案）」により実施する。 土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合、試験の結果、六価クロムの溶出量が土壌環境基準を超えた場合等は、監督員と協議するものとする。	○	4. 地盤改良	◎締め固め機械の選定に当たっては、地質の状況を検討し監督員の承諾を得ること。  ◎捨コンクリートは、無筋コンクリート（スランプ15cm、設計基準強度18N/mm2）とし、厚さは 50 mmとする。  ◎床下防湿層は、ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合せ及び基礎梁際のみ込みは250mm、断熱材のある場合のみ込みは400mm以上とする。  ◎防湿層の位置は、土間スラブ又は土間コンクリートの直下とする。ただし、断熱材がある場合は、断熱材の直下とする。  ◎六価クロム溶出試験を（行う）・行わない）。 行った場合、土壌環境基準以下であることを確認すると共に、試験結果（計量証明書）を監督員に提出するものとする。 六価クロム溶出試験は、「セメント及びセメント系固化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置」（平成12年3月31日 建設第258号）の「六価クロム溶出試験実施要領（案）」により実施する。 土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合、試験の結果、六価クロムの溶出量が土壌環境基準を超えた場合等は、監督員と協議するものとする。	○	7. 配筋検査	◎コンクリートの種別 ・Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート） ・Ⅱ類（JIS A 5308への適合したコンクリート） ◎設計基準強度 <table><tr><th>コンクリートの種類</th><th>設計基準強度 F<sub>c</sub>(N/mm2)</th><th>調合管理強度 F<sub>n</sub>(N/mm2)</th><th>スランプ (cm)</th><th>強度試験の有無</th><th>種別</th><th>気乾単位容積重量 (t/m3)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>Ⅰ類</td><td>21</td><td>+S</td><td>15</td><td>有</td><td>A種</td><td>2.3</td><td>基礎(躯体)</td></tr><tr><td>Ⅰ類</td><td>18</td><td></td><td>15</td><td>無</td><td>B種</td><td>2.3</td><td>捨てコン(躯体)</td></tr><tr><td>Ⅰ類</td><td>18</td><td></td><td>15</td><td>無</td><td>B種</td><td>2.3</td><td>土間・工作物</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ◎構造体コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度（F <sub>c</sub> ）に構造体強度補正值（S）を加えた値とする。 なお、構造体強度補正值（S）は、標仕 表6.3.2によりセメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。  ◎コンクリートの強度試験 コンクリートの強度試験については、次のとおり取扱うものとする。 ・第4週強度確認 原則、第3者機関にて、主任技術者又は現場代理人会いの上、行うこと。 ただし、第3者機関以外で行う場合は、立ち会い者を定め、監督員の承認を受け、行うこととする。 なお、試験機関を選定した際には、すみやかに監督員に報告すること。  ◎骨材は、標仕6.3.1 ② による。  ◎細骨材としてフェロニッケルスラグ使用（ できる ・（できない））。  ◎細骨材に含まれる塩化量は、NaCl換算で0.04%以下とする。  ◎コンクリート中の塩化量は、0.3kg/m3以下とし、試験方法は標仕6.5.4による。	コンクリートの種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm2)	調合管理強度 F <sub>n</sub> (N/mm2)	スランプ (cm)	強度試験の有無	種別	気乾単位容積重量 (t/m3)	適用箇所	Ⅰ類	21	+S	15	有	A種	2.3	基礎(躯体)	Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	捨てコン(躯体)	Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	土間・工作物																	
コンクリートの種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm2)	調合管理強度 F <sub>n</sub> (N/mm2)	スランプ (cm)	強度試験の有無	種別	気乾単位容積重量 (t/m3)	適用箇所																																																		
Ⅰ類	21	+S	15	有	A種	2.3	基礎(躯体)																																																		
Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	捨てコン(躯体)																																																		
Ⅰ類	18		15	無	B種	2.3	土間・工作物																																																		

縮尺 A2：100％ A3：70.7％	海陽町	工事名称 令和7年度 竹ヶ島四阿新設工事	図面番号 A — 03	I：NON
	設計 R7.12	竣工	図面名称 建築特記仕様書（3）	

章	適用可否	項 目	特 記 事 項	章	適用可否	項 目	特 記 事 項	章	適用可否	項 目	特 記 事 項																																																																																		
6章 コンクリート工事			◎試験りは（行う・ <u>行わない</u> ）。  ◎所要空気量は4.5%±1.5%とする。  ◎受注者は、コンクリートの使用にあたってアルカリ骨材反応を抑制するため、次の3つの対策の中のいずれかが1つについて確認をとらなければならない。 (1) コンクリート中のアルカリ総量の抑制 アルカリ量が表示されたボルトランドセメント等を使用し、コンクリート1m3に含まれるアルカリ総量をNa2O（エヌエーツーオー）換算で3.0kg以下にする。 (2) 抑制効果のある混合セメント等の使用 JIS R 5211高炉セメントに適合する高炉セメント [B種またはC種] あるいはJIS R 5213フライアッシュセメントに適合するフライアッシュセメント [B種またはC種] もしくは混和材をボルトランドセメントに混入した結合材でアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたものを使用する。 (3) 安全と認められる骨材の使用 骨材のアルカリシリカ反応性試験（化学法またはモルタルバー法）の結果で無害と確認された骨材を使用する。試験方法は、JIS A 1145骨材のアルカリシリカ反応性試験方法（化学法）またはJIS A 5308（レディミクストコンクリート）の付属書7「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法（化学法）」、JIS A 1146骨材のアルカリシリカ反応性試験方法（モルタルバー法）またはJIS A 5308（レディミクストコンクリート）の付属書8「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法（モルタルバー法）」による。  ◎混和材料を使用する場合の種類は標仕6.3.1 (4) によることとし、監督員の承諾を受けること。  ◎ひび割れ誘発目地の位置（ ⊙ ⊙1,800内外 ⊙ ）  ◎工事開始に先立ち、工場を選定し、監督職員の承諾を受ける。  ◎型枠は、（県産木製型枠 ⊙ 合板 ・ 金属製 ・ 樹脂系 ・ 打込み型枠 ・ ブロック ）とする。 <table><tr><td>型枠の種類</td><td>仕上げ種別</td><td>塗装の有無</td><td>材質</td><td>厚さ</td><td>適用箇所</td></tr><tr><td>県産木製型枠</td><td>－</td><td>なし</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>標仕6.8.2 (2)Ⅰア)</td><td>A 種</td><td>あり</td><td>ラワン合板</td><td>12</td><td>基礎</td></tr><tr><td>標仕6.8.2 (2)Ⅰイ)</td><td>B 種</td><td>なし</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>標仕6.8.2 (2)Ⅰイ)</td><td>C 種</td><td>なし</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>標仕6.8.2 (2)Ⅰイ)</td><td>普通型枠</td><td>なし</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ◎スリーブの材種（ 紙チューブ ）  ◎打ち放し仕上げの打ち増し厚さは（ 25 ）mmとし、打ち増しの範囲は図示による。  ◎打ち放し仕上げのコーンは原則、Pコンとする。また脱型後の穴埋めは、樹脂モルタルにより打ち放し面より2mm程度、引込める。	型枠の種類	仕上げ種別	塗装の有無	材質	厚さ	適用箇所	県産木製型枠	－	なし				標仕6.8.2 (2)Ⅰア)	A 種	あり	ラワン合板	12	基礎	標仕6.8.2 (2)Ⅰイ)	B 種	なし				標仕6.8.2 (2)Ⅰイ)	C 種	なし				標仕6.8.2 (2)Ⅰイ)	普通型枠	なし				13章 屋根及びとい工事	○ 1. 一般事項	◎屋根葺き材、緊結金物については、下地も含め安全性を確認し、監督員の承諾を得ること。  ◎標準仕様書以外の工法は、専門業者の仕様による。  ◎建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速 V0=（ 38 ）m/s 地表面粗度区分 （Ⅰ ・ Ⅱ ⊙Ⅲ ・Ⅳ ） 積雪区分 無し  ◎屋根葺き形式 ・横葺（ 一文字葺き ・ ひし形葺き ） ・心木なし瓦棒葺 ⊙立平葺  ◎材料 <table><tr><td>施工箇所</td><td>種 類 (JIS規格名称)</td><td>JIS規格番号</td><td>鋼板の厚さ (mm)</td><td>めっき 付着量</td><td>塗膜の 耐久性 の種類</td><td>下葺材料</td></tr><tr><td>屋根</td><td>JIS G3322</td><td></td><td>0.4</td><td></td><td></td><td>図示による</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ◎工法 <table><tr><td>施工箇所</td><td>葺板の寸法 (mm)</td><td>下 地</td><td>留付け方法</td></tr><tr><td>屋根</td><td>400</td><td>改質アスファルト防水材 x 2重</td><td>専用ビス止め</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>  ◎指定のない付属材料は、屋根葺工法に応じた専門工事業者の仕様による。  ◎建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した固定金具の間隔、固定方法等を施工計画書として提出する。	施工箇所	種 類 (JIS規格名称)	JIS規格番号	鋼板の厚さ (mm)	めっき 付着量	塗膜の 耐久性 の種類	下葺材料	屋根	JIS G3322		0.4			図示による								施工箇所	葺板の寸法 (mm)	下 地	留付け方法	屋根	400	改質アスファルト防水材 x 2重	専用ビス止め					18章 ユニット及びその他の工事	1.人工ベンチ	◎座面・人工木材（リサイクルウッド） 脚：P.Cコンクリート ベンチ・サークルベンチ（6分割） タカオ脚 又は同等品 <table><tr><td>材種</td><td>表面の処理</td><td>直径</td><td>取付箇所</td><td>備考</td></tr><tr><td>ステンレス</td><td>ヘアライン</td><td>42.7φ</td><td></td><td>四国化成 SB型程度</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ◎手すりの支柱は、コンクリートあるいはモルタルの中に入る部分であっても錆止め処理を行うこと。  ◎擬木 90x90 直埋めタイプ NEOCUT WOOD 備高儀 又は同等品	材種	表面の処理	直径	取付箇所	備考	ステンレス	ヘアライン	42.7φ		四国化成 SB型程度					
	型枠の種類	仕上げ種別	塗装の有無	材質	厚さ	適用箇所																																																																																							
	県産木製型枠	－	なし																																																																																										
標仕6.8.2 (2)Ⅰア)	A 種	あり	ラワン合板	12	基礎																																																																																								
標仕6.8.2 (2)Ⅰイ)	B 種	なし																																																																																											
標仕6.8.2 (2)Ⅰイ)	C 種	なし																																																																																											
標仕6.8.2 (2)Ⅰイ)	普通型枠	なし																																																																																											
施工箇所	種 類 (JIS規格名称)	JIS規格番号	鋼板の厚さ (mm)	めっき 付着量	塗膜の 耐久性 の種類	下葺材料																																																																																							
屋根	JIS G3322		0.4			図示による																																																																																							
施工箇所	葺板の寸法 (mm)	下 地	留付け方法																																																																																										
屋根	400	改質アスファルト防水材 x 2重	専用ビス止め																																																																																										
材種	表面の処理	直径	取付箇所	備考																																																																																									
ステンレス	ヘアライン	42.7φ		四国化成 SB型程度																																																																																									
○ 4. ひび割れ誘発目地		○ 5. レディミクストコンクリート 工場の指定	○ 6. 型枠	1. 一般事項	◎敷設された配管、桷等は、所定のものあり、所定の形状及び寸法を有すること。  ◎工事着手前に 既存排水管・給水管の位置について現地確認を行い監督員と協議をしておくこと。  ◎配管、桷、街きよ、縁石、側溝等は、排水に支障となる沈下や漏水がないこと。 <table><tr><td>材種</td><td>管の種類</td><td>呼び径</td><td>備考</td></tr><tr><td>硬質ポリ塩化ビニル管</td><td>V U</td><td>100φ</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ◎排水マスの形状：図示 ◎グレーチング <table><tr><td>材種</td><td>用途</td><td>適用荷重</td><td>メカベリガ</td><td>亜鉛めっき付着量</td><td>上面形状</td><td>備考</td></tr><tr><td>スチール</td><td>U字溝用</td><td>歩道用</td><td>あら目</td><td></td><td></td><td>滑り止め模様</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ◎側溝 <table><tr><td>名称</td><td>形状</td><td>寸法</td><td>備考</td></tr><tr><td>U型側溝</td><td></td><td>溝幅150</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	材種	管の種類	呼び径	備考	硬質ポリ塩化ビニル管	V U	100φ						材種	用途	適用荷重	メカベリガ	亜鉛めっき付着量	上面形状	備考	スチール	U字溝用	歩道用	あら目			滑り止め模様								名称	形状	寸法	備考	U型側溝		溝幅150																																																
材種	管の種類	呼び径	備考																																																																																										
硬質ポリ塩化ビニル管	V U	100φ																																																																																											
材種	用途	適用荷重	メカベリガ	亜鉛めっき付着量	上面形状	備考																																																																																							
スチール	U字溝用	歩道用	あら目			滑り止め模様																																																																																							
名称	形状	寸法	備考																																																																																										
U型側溝		溝幅150																																																																																											
12章 木工事	○ 1. 一般事項	◎木材、合板等は、品質、含水率、出荷量等を記録した出荷証明書を経験員に提出する。含水率は（(A) ・ B ）種とする。  ◎木材の品質 ・保存処理木材は、日本農林規格に規定する保存処理の処理区分のうち、K2からK4までの保存処理（JIS K 1570）（木材保存剤）に規定する木材保存剤（ただし、クレオソート油は有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律（昭和48年法律第112号）に適合したものとする。）、これと同等の薬剤を用いたK2からK4までの薬剤の浸潤度及び吸収量を確保する工場処理その他これと同等の性能を有する処理を含む。）が施されているもの又は認証木材建材（AQ マーク表示）として認定された保存処理材を使用するものとする。 ・樹種及び等級 <table><tr><td>施工箇所</td><td>樹 種</td><td>寸法</td><td>材料の等級</td><td>形状</td><td>含水率</td><td>保存処理</td><td>備 考</td></tr><tr><td rowspan="3">下 地 材</td><td>柱</td><td>種 図示</td><td>A種</td><td>図示</td><td>15%以下</td><td>防腐・防蟻</td><td>加圧注入（無色）</td></tr><tr><td>梁</td><td>杉</td><td>図示</td><td>A種</td><td>図示</td><td>15%以下</td><td></td></tr><tr><td>母屋・鼻隠</td><td>杉</td><td>図示</td><td>A種</td><td>図示</td><td>15%以下</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">造 作 材</td><td>化粧格子</td><td>杉</td><td>図示</td><td>A種</td><td>図示</td><td>15%以下</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	施工箇所	樹 種	寸法	材料の等級	形状	含水率	保存処理	備 考	下 地 材	柱	種 図示	A種	図示	15%以下	防腐・防蟻	加圧注入（無色）	梁	杉	図示	A種	図示	15%以下		母屋・鼻隠	杉	図示	A種	図示	15%以下		造 作 材	化粧格子	杉	図示	A種	図示	15%以下									15章 左官工事	1. 一般事項	◎下地調整に用いる吸水調整材の使用方法は、製造所の仕様による。  ◎コンクリート等面の下地及び各塗り層は、清掃のうえ適度の水湿しを行って、次の層の塗り方にかかる。  ◎床コンクリート直均し仕上げは、公共建築工事標準仕様書第15章4節による。  ◎施工箇所（ 土間床 ） 誘発目地：カッター切り	21章 排水工事	2. 排水管																																									
	施工箇所	樹 種	寸法	材料の等級	形状	含水率	保存処理	備 考																																																																																					
	下 地 材	柱	種 図示	A種	図示	15%以下	防腐・防蟻	加圧注入（無色）																																																																																					
梁		杉	図示	A種	図示	15%以下																																																																																							
母屋・鼻隠		杉	図示	A種	図示	15%以下																																																																																							
造 作 材	化粧格子	杉	図示	A種	図示	15%以下																																																																																							
○ 2. 製材			2. 排水桷等																																																																																										
○ 3. 野地板用合板等	◎柱材の 加圧注入と背割りの施工方法については、監督員と協議するものとする。  ◎ホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆☆の床張り合板等を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。  ◎構造用合板 ・野地板下地：構造用合板 t=12 ・野地板：中造林藪 杉 t=30 埋木・サンダー仕上 実付 又は同等品	16章 塗装工事	1. 一般事項	◎防火材料又は建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。  ◎塗料はホルマリン不検出のもの及び有機溶剤の含有量が少ないものとする。  ◎ユリア樹脂等（ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤）を用いた塗料のホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆☆の塗料を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。 <table><tr><td>区 分</td><td>種 別</td><td>素地ごしらえ</td><td>錆止め塗料 塗りの種類</td><td>上塗りの 等級</td><td>備 考</td></tr><tr><td>鉄鋼面</td><td></td><td>B種</td><td>A種</td><td>I級</td><td>柱脚金物・格子受け金物</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <table><tr><td>区 分</td><td>種 別</td><td>素地ごしらえ</td><td>備 考</td></tr><tr><td>木部</td><td>A種</td><td>A種</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	区 分	種 別	素地ごしらえ	錆止め塗料 塗りの種類	上塗りの 等級	備 考	鉄鋼面		B種	A種	I級	柱脚金物・格子受け金物							区 分	種 別	素地ごしらえ	備 考	木部	A種	A種																																																																
区 分	種 別	素地ごしらえ	錆止め塗料 塗りの種類	上塗りの 等級	備 考																																																																																								
鉄鋼面		B種	A種	I級	柱脚金物・格子受け金物																																																																																								
区 分	種 別	素地ごしらえ	備 考																																																																																										
木部	A種	A種																																																																																											
縮尺 A2：100% A3：70.7%				海陽町		工事名称 令和7年度 竹ヶ島四阿新設工事		図面番号 A - 04																																																																																					
設計 R7.12		竣工		図面名称 建築特記仕様書（4）		縮尺 1：NON																																																																																							



附近見取図

徳島県海部郡海陽町穴喰浦字竹ヶ島

工事場所



附近見取図（拡大）

縮尺 A2：100％  
A3：70.7％

海陽町

工事名称 R 7年度 竹ヶ島四阿新設工事

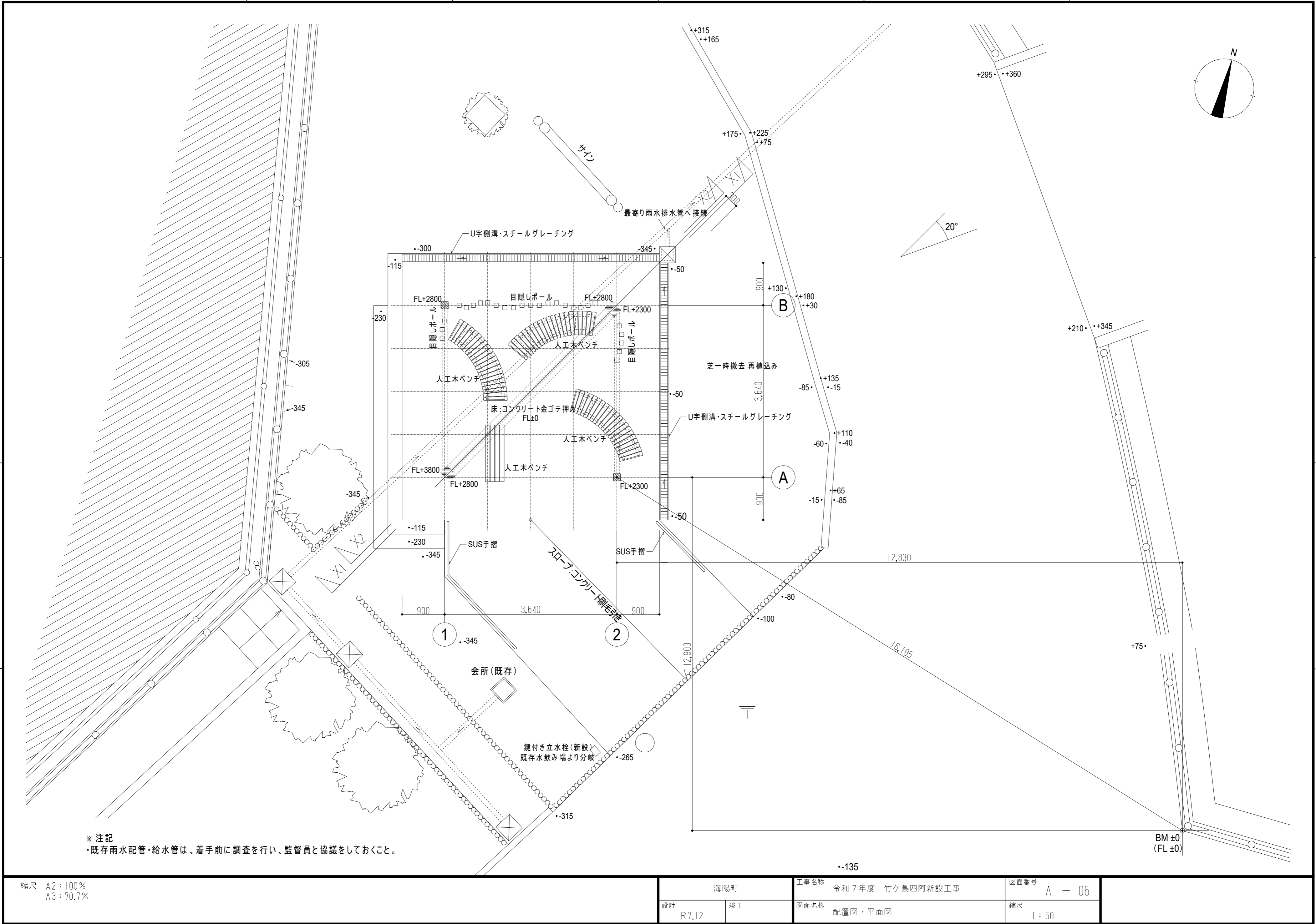
図面番号 A - 05

設計 R7.12

竣工

図面名称 附近見取図

縮尺 1：NON

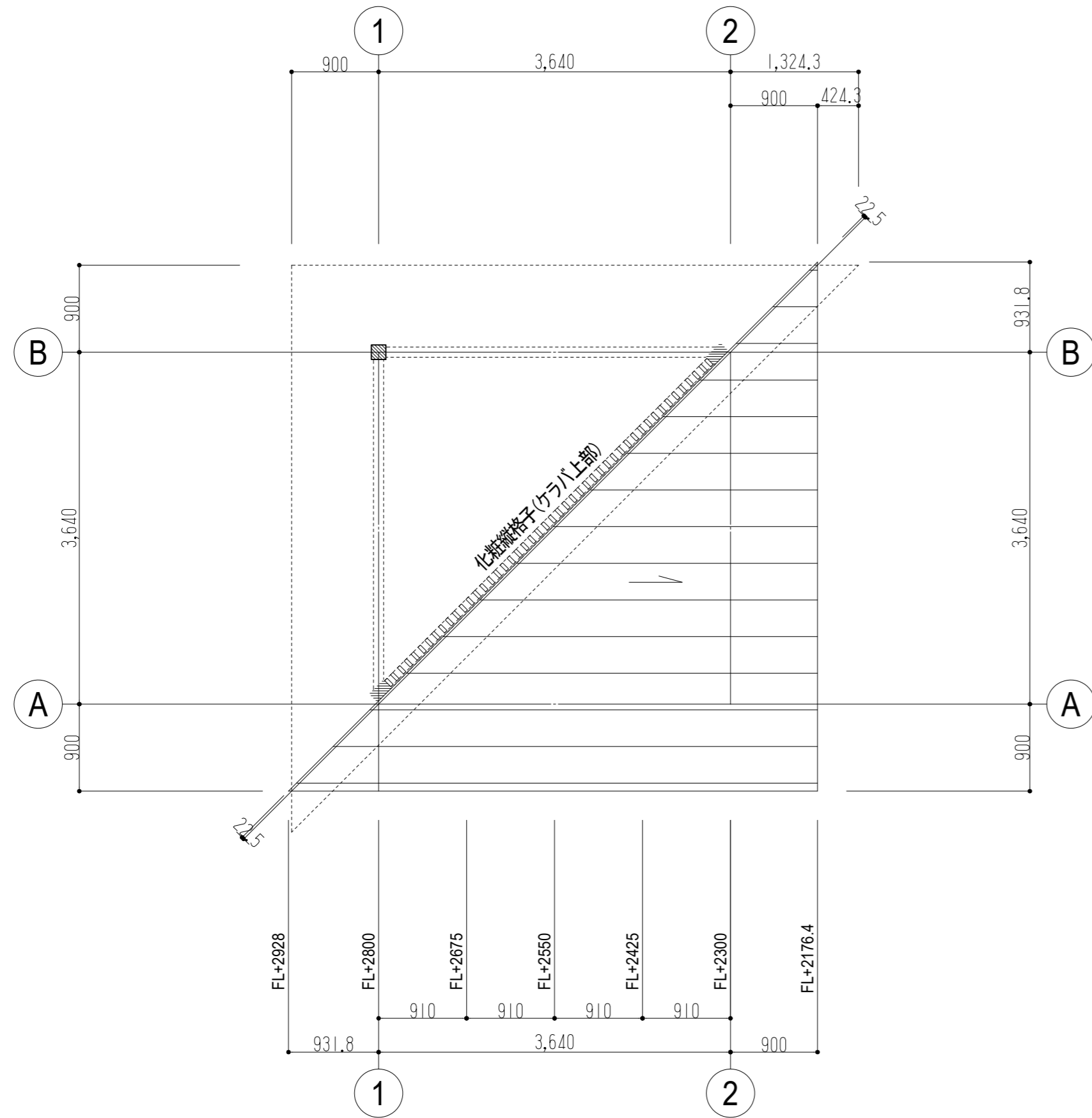
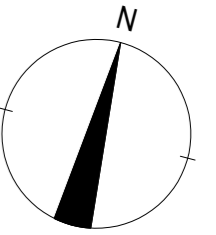


縮尺 A2:100%  
A3:70.7%

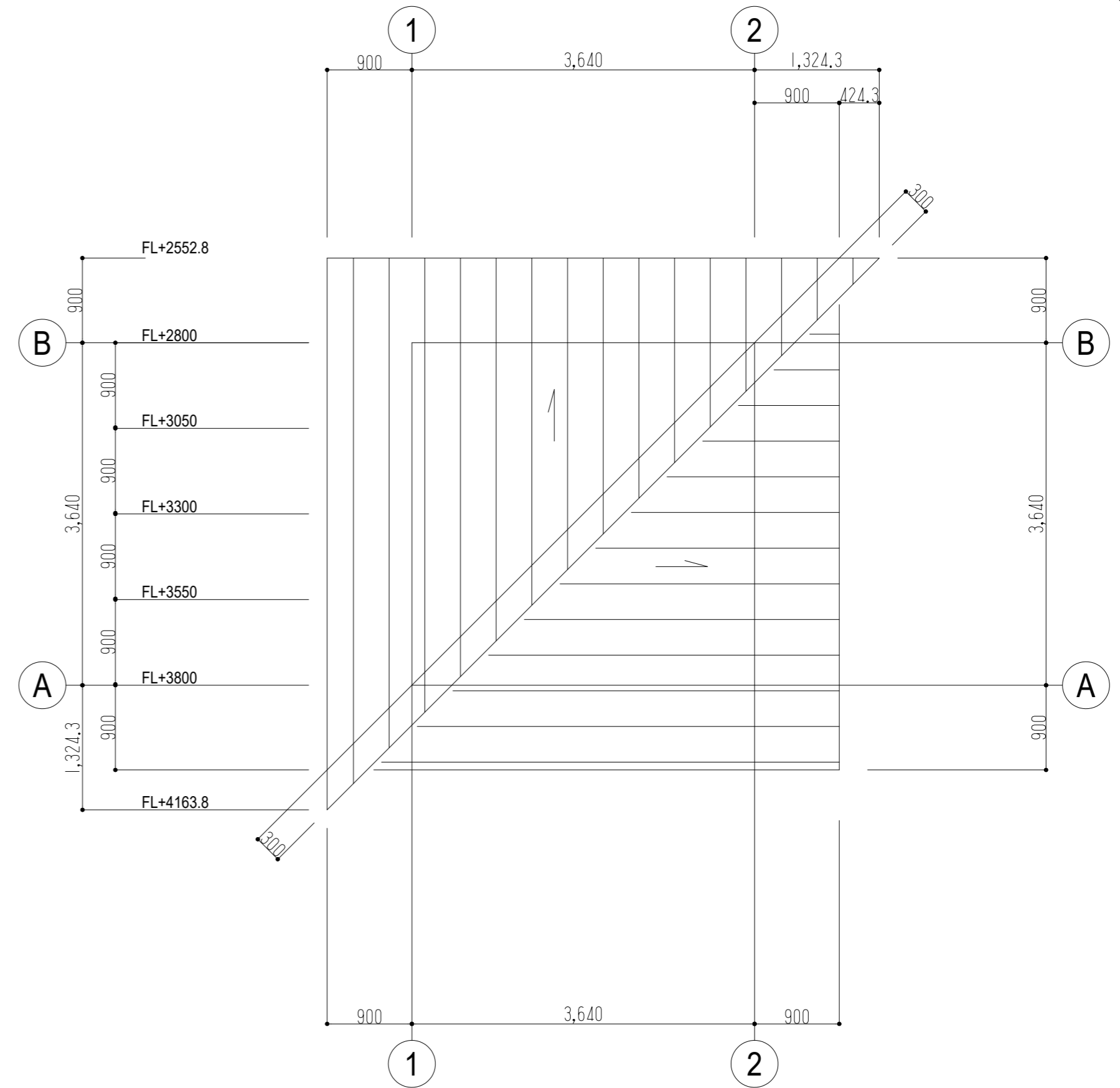
海陽町  
設計 R7.12  
竣工

工事名称 令和7年度 竹ヶ島四阿新設工事  
図面名称 配置図・平面図

図面番号 A-06  
縮尺 1:50



屋根伏図(1) S=1/50  
FL+2300~FL+2800



屋根伏図(2) S=1/50  
FL+2800~FL+3800

※ 注記  
・FLからの各梁天端までの高さを示す。

縮尺 A2:100%  
A3:70.7%

海陽町

工事名称 令和7年度 竹ヶ島四阿新設工事

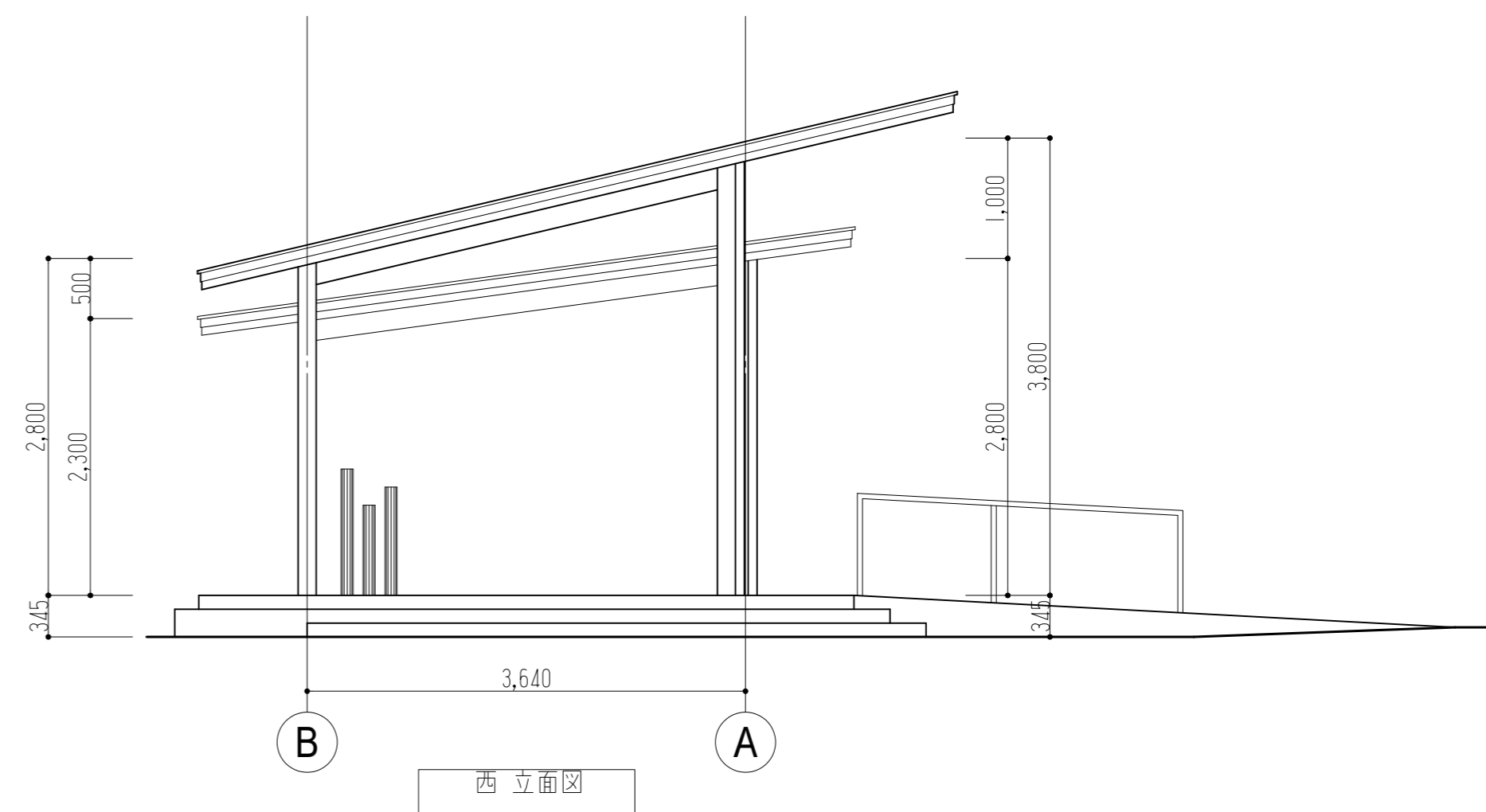
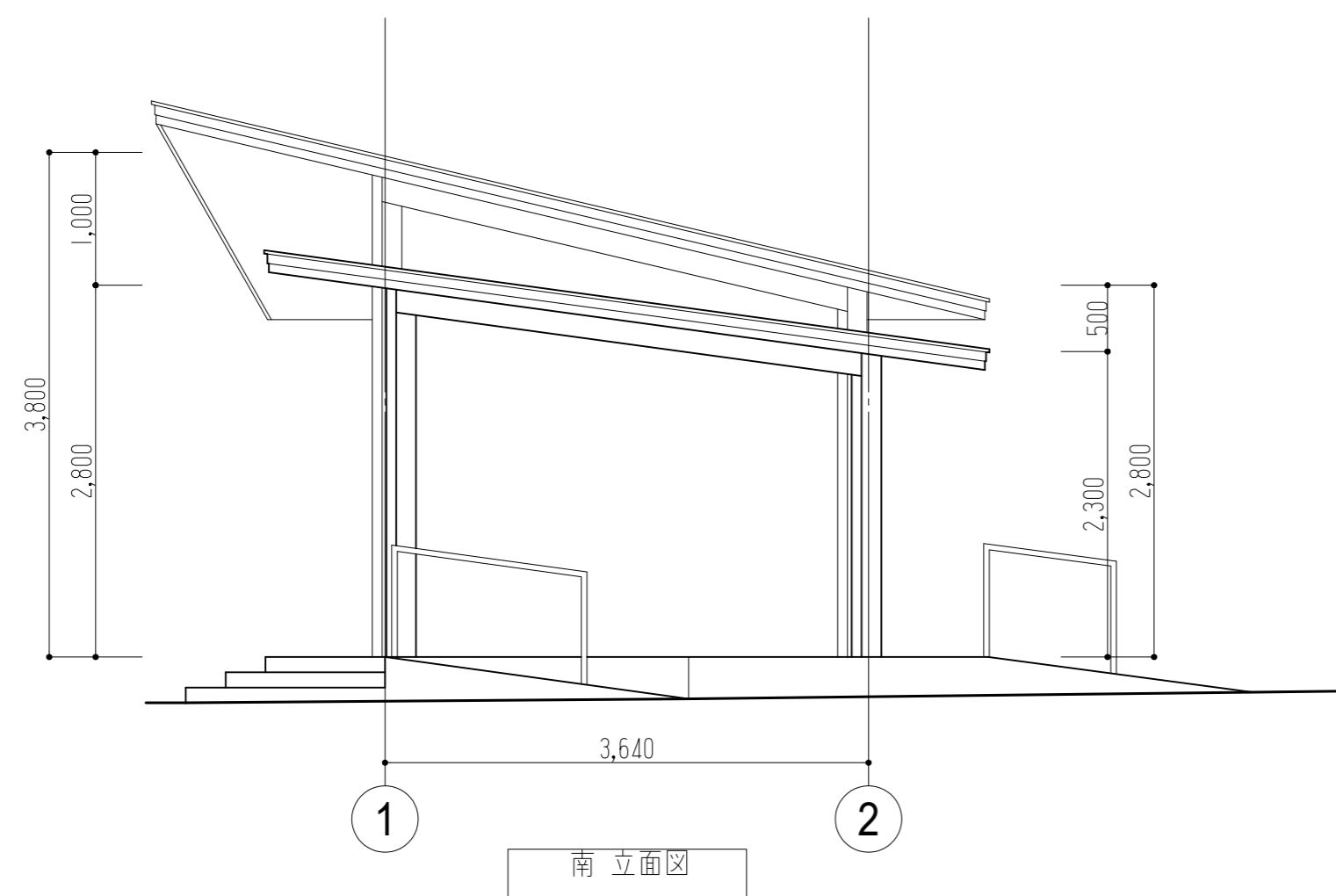
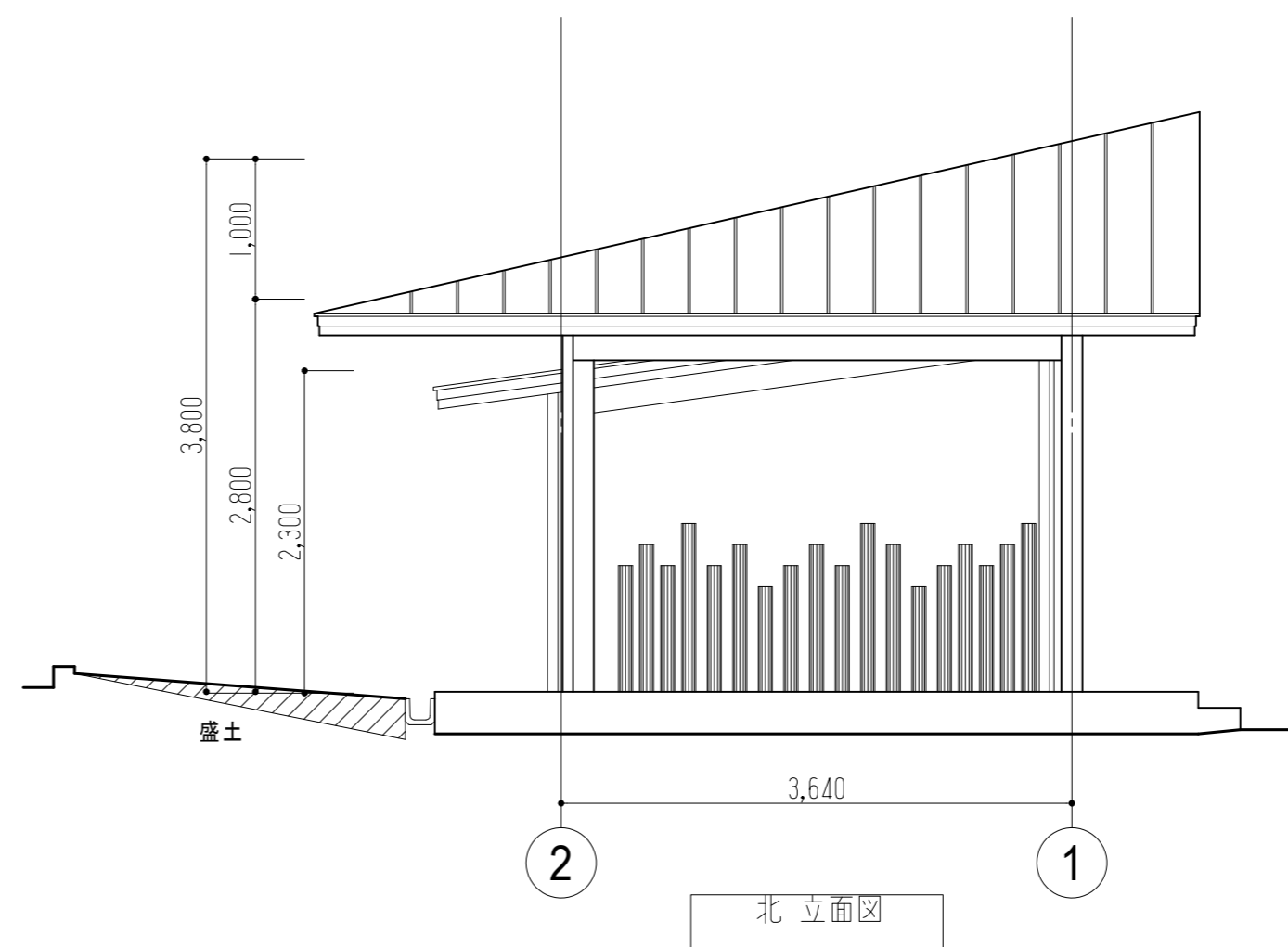
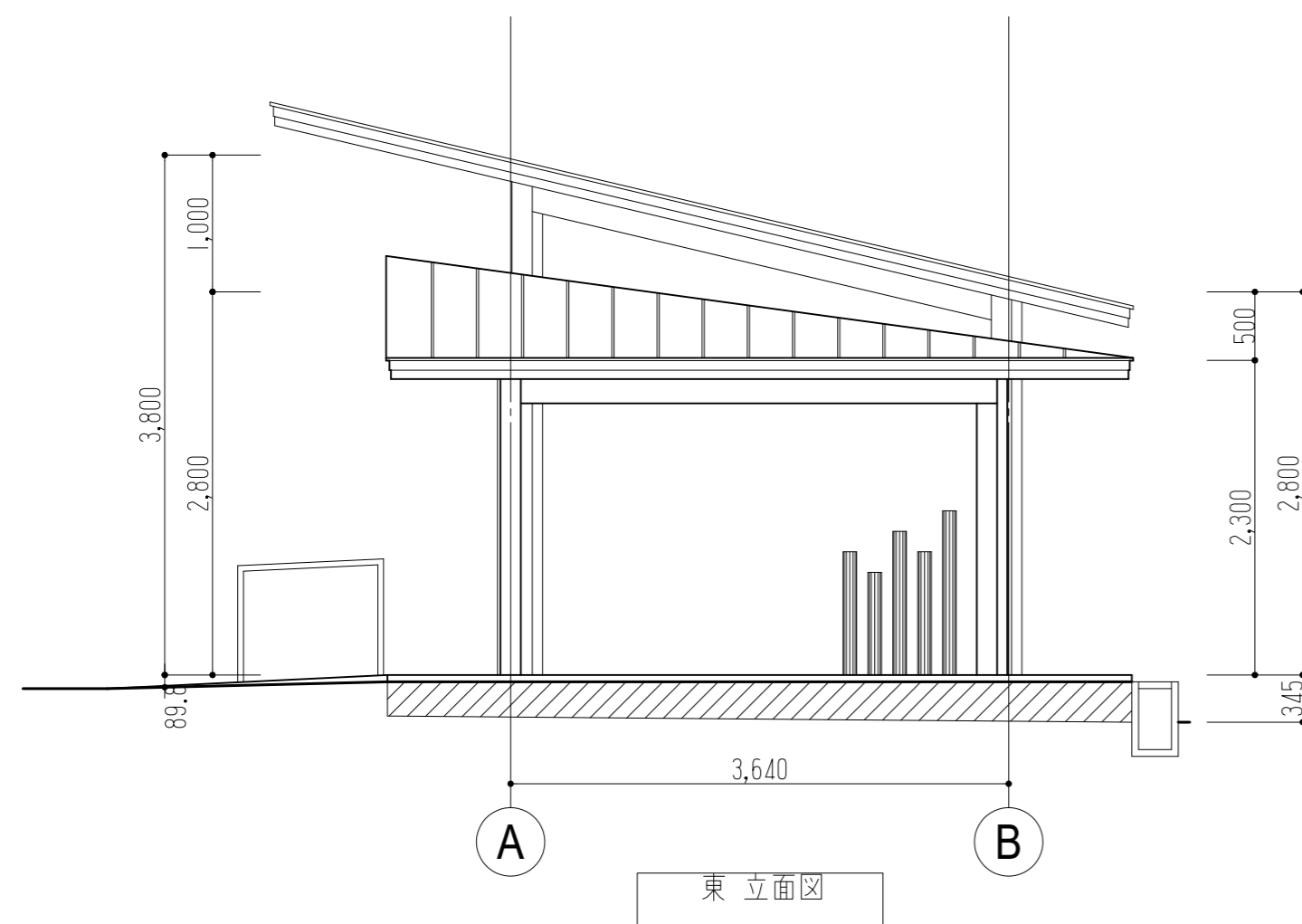
図面番号 A - 07

設計 R7.12

竣工

図面名称 屋根伏図

縮尺 1:50



縮尺 A2:100%  
A3:70.7%

海陽町

工事名称 令和7年度 竹ヶ島四阿新設工事

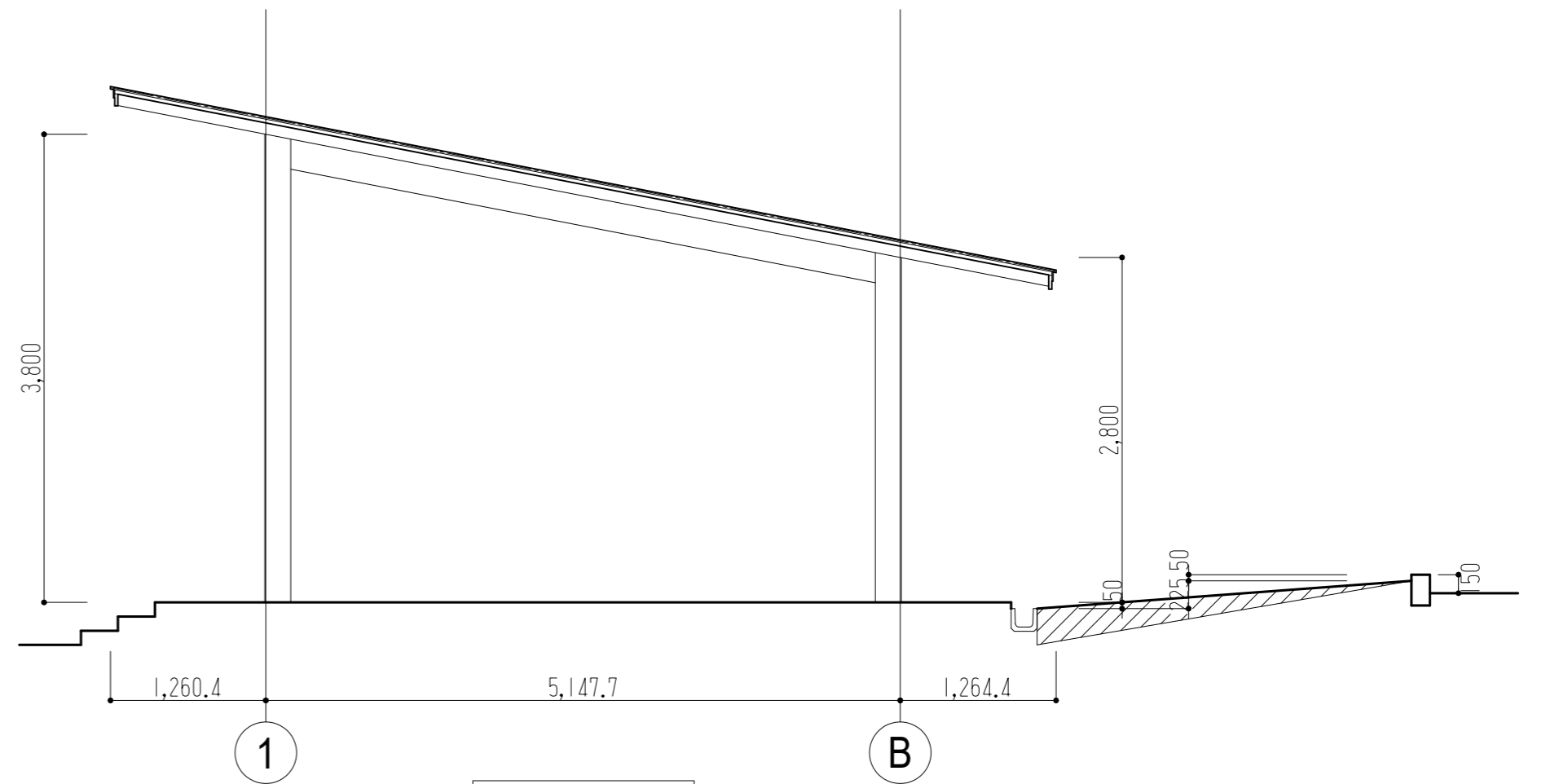
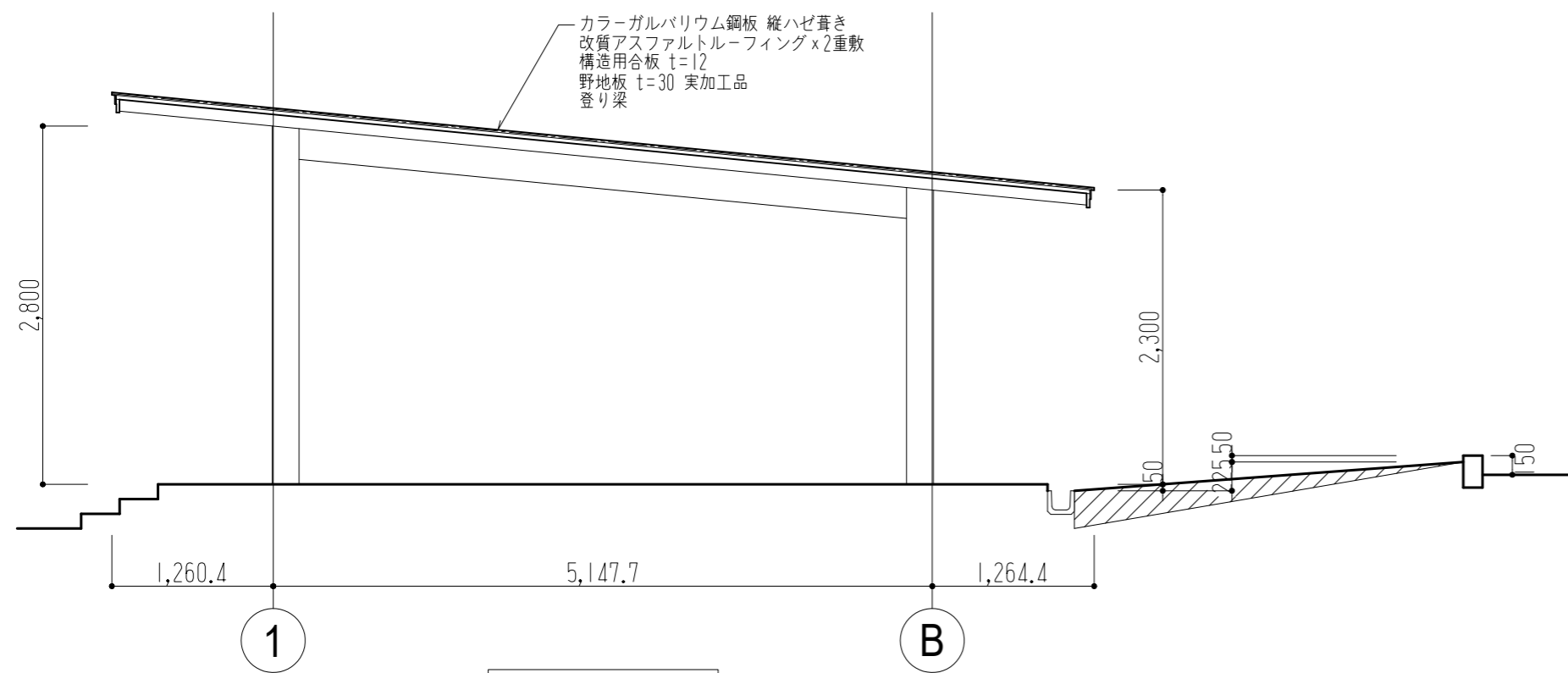
図面番号 A - 08

設計 R8.00

竣工

図面名称 立面図

縮尺 1:50



縮尺 A2:100%  
A3:70.7%

海陽町

工事名称 令和7年度 竹ヶ島四阿新設工事

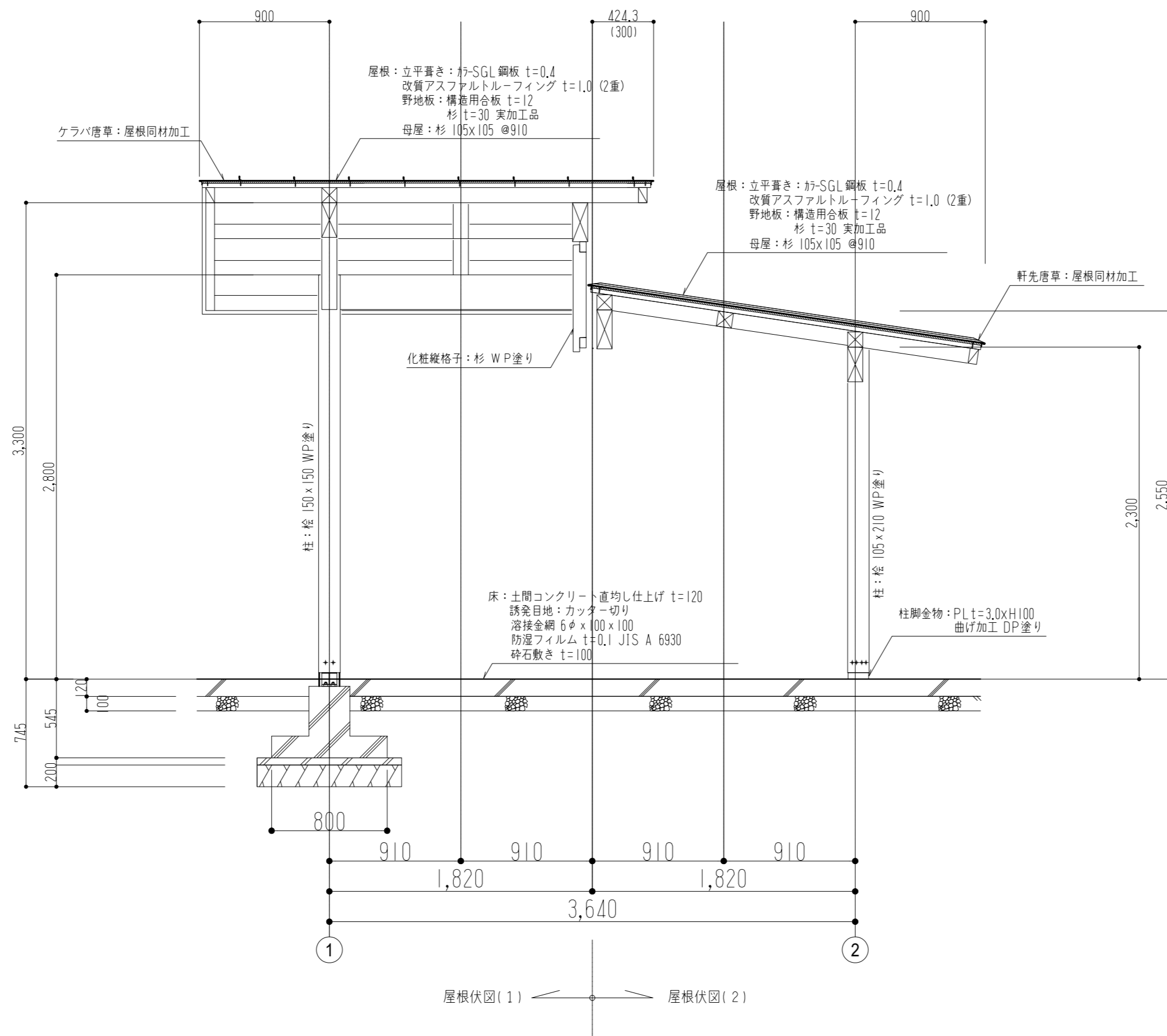
図面番号 A - 09

設計 R7.12

竣工

図面名称 断面図

縮尺 1:50



X ~ X 断面詳細図 S=1/30

※注記  
・木部見え掛りは、木材保護塗料塗り仕上げとする。

縮尺 A2:100%  
A3:70.7%

海陽町

工事名称 R 7年度 竹ヶ島四阿新設工事

図面番号 A - 10

設計 R7.12

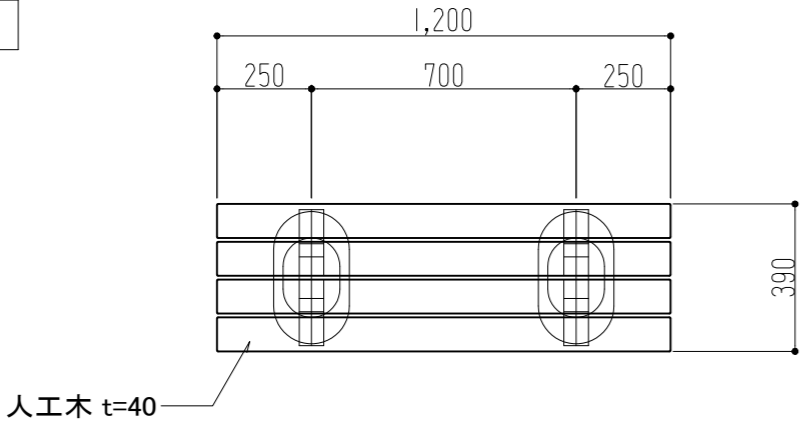
竣工

図面名称 断面詳細図

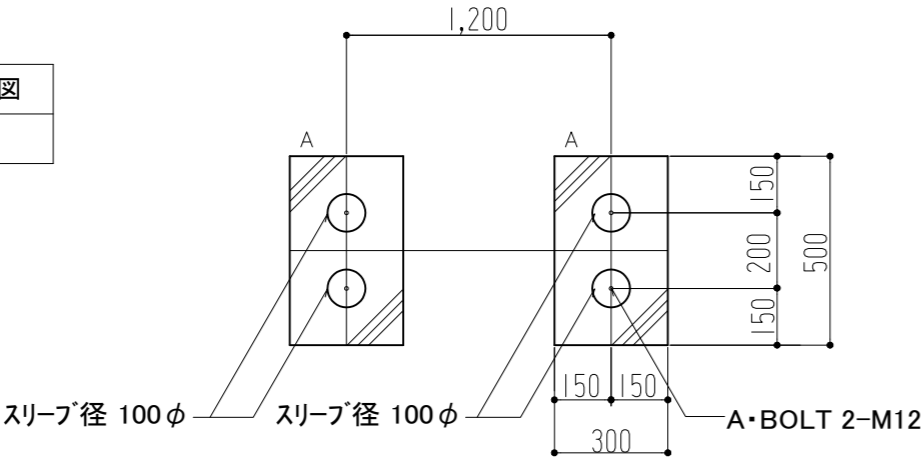
縮尺 1:30

ケラバ納まり(水・下)詳細図	S= 1/5	ケラバ納まり(水・上)詳細図	S= 1/5	ケラバ・平伏納まり詳細図	S= 1/5
<div><div>立平葺き材-SGL鋼板t=0.4mm 下葺き材:改質アスファルト-フイグt=1.0(2重) 構造用合板t=12 野地板 杉 t=30 実加工品</div><div>軒先唐草: 屋根同材加工</div><div>30 105</div><div>▽梁天勾配</div><div>軒先</div></div>		<div><div>立平葺き材-SGL鋼板t=0.4mm 下葺き材:改質アスファルト-フイグt=1.0(2重) 構造用合板t=12 実加工品 野地板t=30 実加工品</div><div>棟唐草: 屋根同材加工</div><div>300 30 105</div><div>▽梁天勾配</div><div>通り芯</div></div>		<div><div>現場調整</div><div>900 379 @379</div><div>立平葺き材-SGL鋼板t=0.4mm 下葺き材:改質アスファルト-フイグt=1.0(2重) 構造用合板t=12 野地板t=30 実加工品</div><div>ケラバ唐草: 屋根同材加工</div><div>20 60 105 45</div><div>▽梁天勾配</div><div>1 A</div></div> <div>※注記 ・立平葺きの割付は、現場調整による</div>	
ケラバ納まり(水・上)詳細図	S= 1/5	化粧縦格子(ケラバ上部)詳細図	S= 1/10	手すり詳細図	S= 1/20
<div><div>立平葺き材-SGL鋼板t=0.4mm 下葺き材:改質アスファルト-フイグt=1.0(2重) 構造用合板t=15 野地板 杉 t=30 実加工品</div><div>軒先唐草: 屋根同材加工</div><div>敷き母屋 105x105</div><div>30 60 105 45</div><div>母屋 105x105</div><div>登り梁 105x270</div><div>22.5</div><div>105 45</div><div>通り芯</div></div>	<div><div>登り梁 105x270</div><div>天端勾配付 構造用ビス</div><div>上受け桟 45x70 杉</div><div>化粧縦格子 杉 35x90 @100</div><div>下受け桟 45x70 杉 天端勾配付 構造用ビス</div><div>受金物: L-7x75x100xL100 @500 DP塗 ステンレス止め</div><div>水抜き穴</div><div>登り梁 105x270</div><div>105 45</div><div>通り芯</div></div> <div><div>登り梁 105x270</div><div>上受け桟</div><div>100</div><div>※注記 ・木部見掛りは、自然塗料仕上とする。 ・化粧格子の割付寸法は、現場調整による ・構造用ビス:パネリードⅡ+程度</div></div>	<div><div>アール端部キャップ</div><div>66.15 197 61.35</div><div>800</div><div>42.7φ</div><div>50 300 200以上 50 埋込</div><div>300</div><div>▽土間仕上</div><div>支柱芯間隔2,000以下</div><div>197 43</div><div>100 120</div><div>550</div><div>コーナージョイント</div></div>			
縮尺 A2 : 100% A3 : 70.7%	海陽町 設計 R7.12 竣工	工事名称 令和7年度 竹ヶ島四阿新設工事 図面名称 部分詳細図(1)	図面番号 A - II 縮尺 1 : 5・10・20		

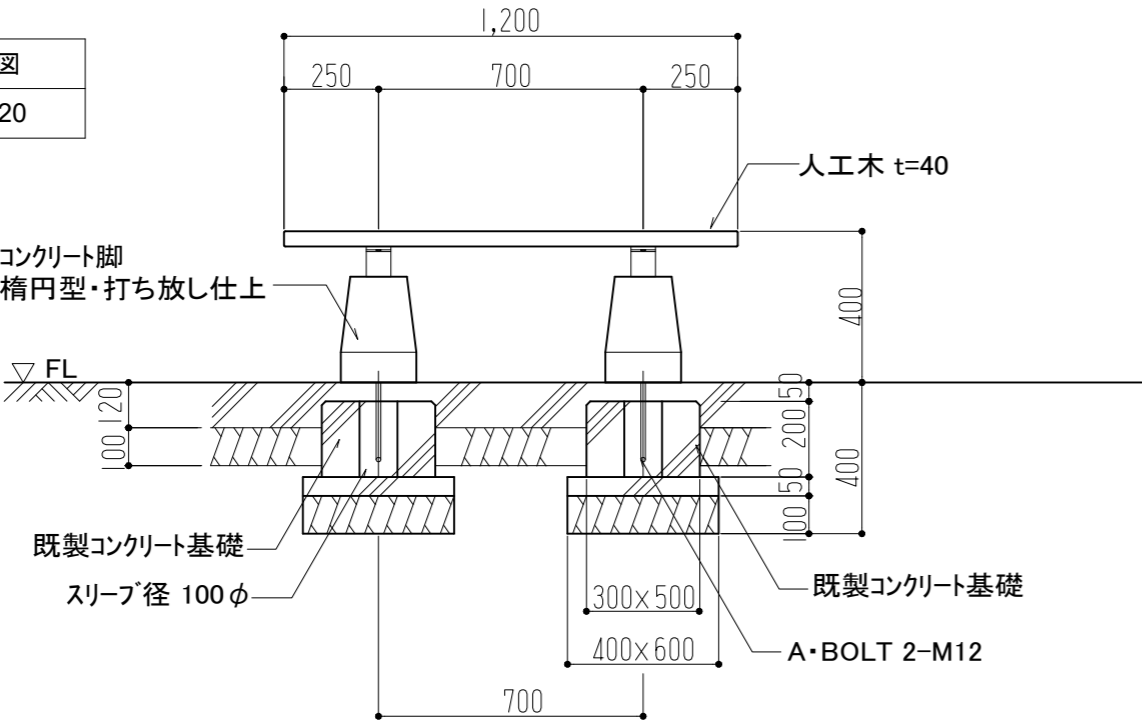
平面図  
S= 1:20



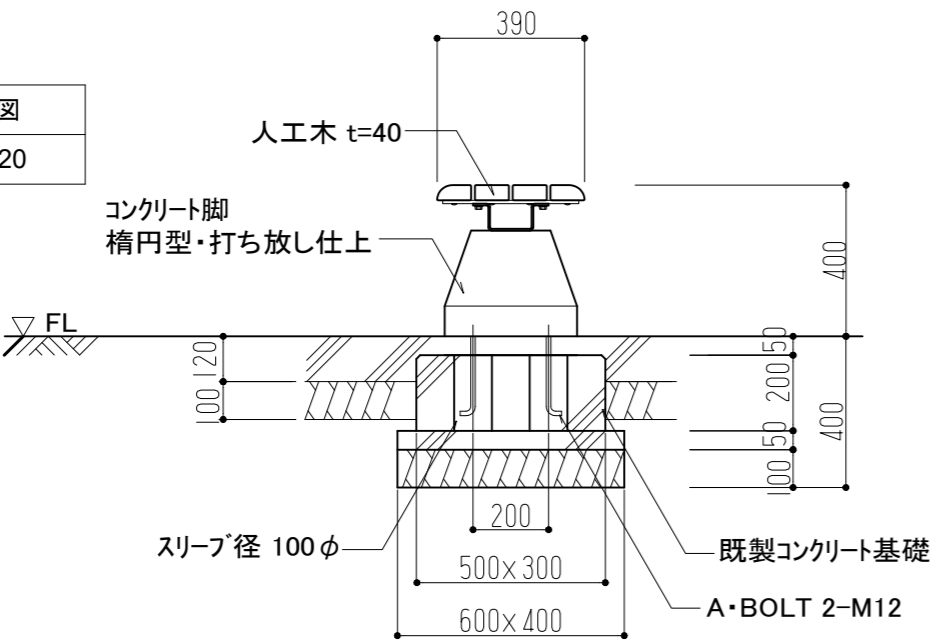
基礎平面図  
S= 1:20



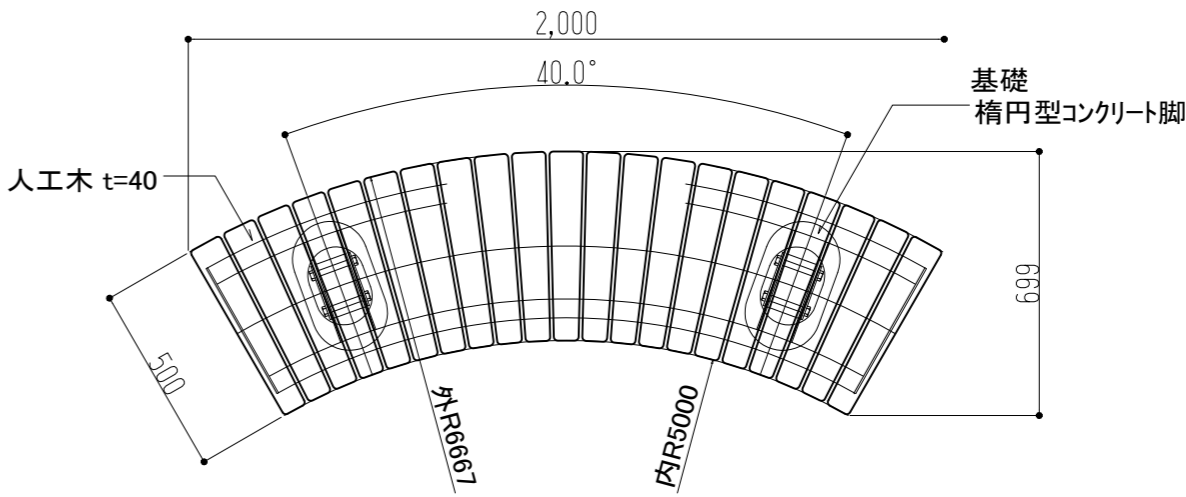
立面図  
S= 1:20



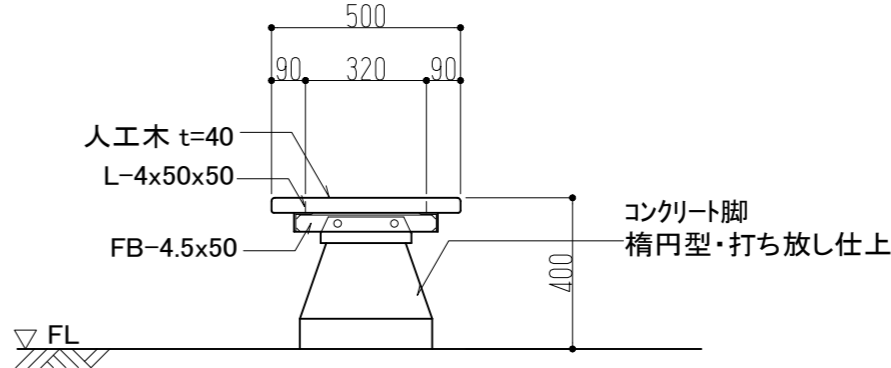
立面図  
S= 1:20



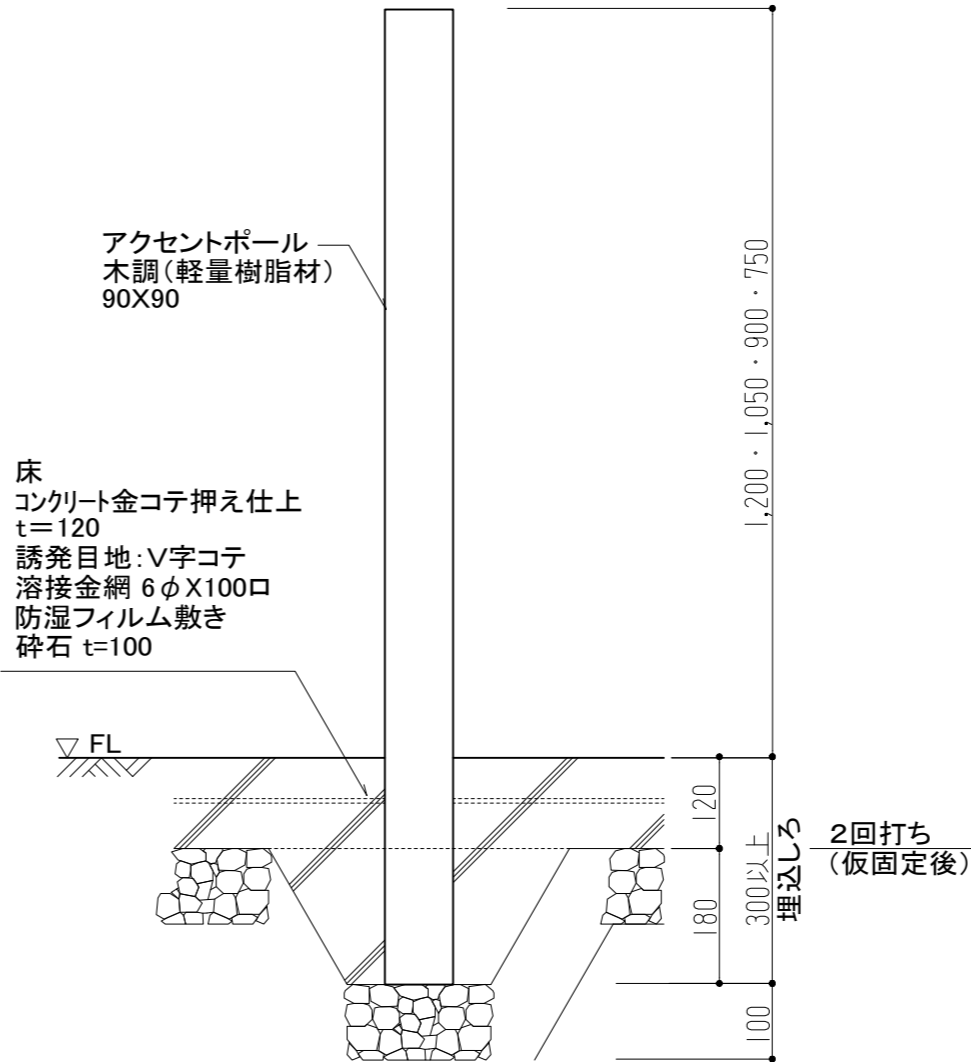
※ 注記  
・ボルト・ナットは、全てステンレスとする。  
・座板は、MEDウッド-Aとする。  
・製品は、(一社)日本公園施設業協会  
・団体賠償責任保険に加入した製品とする。



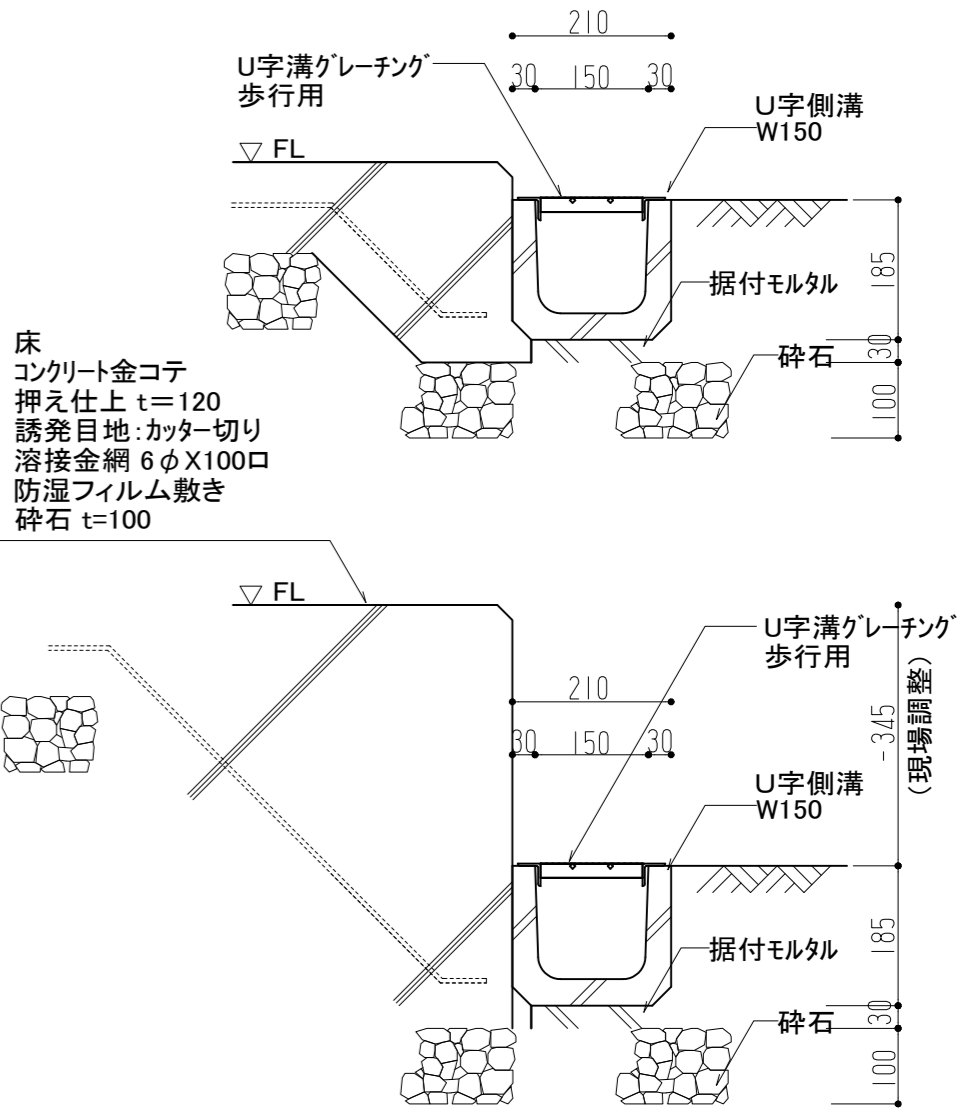
側面図  
S= 1:20



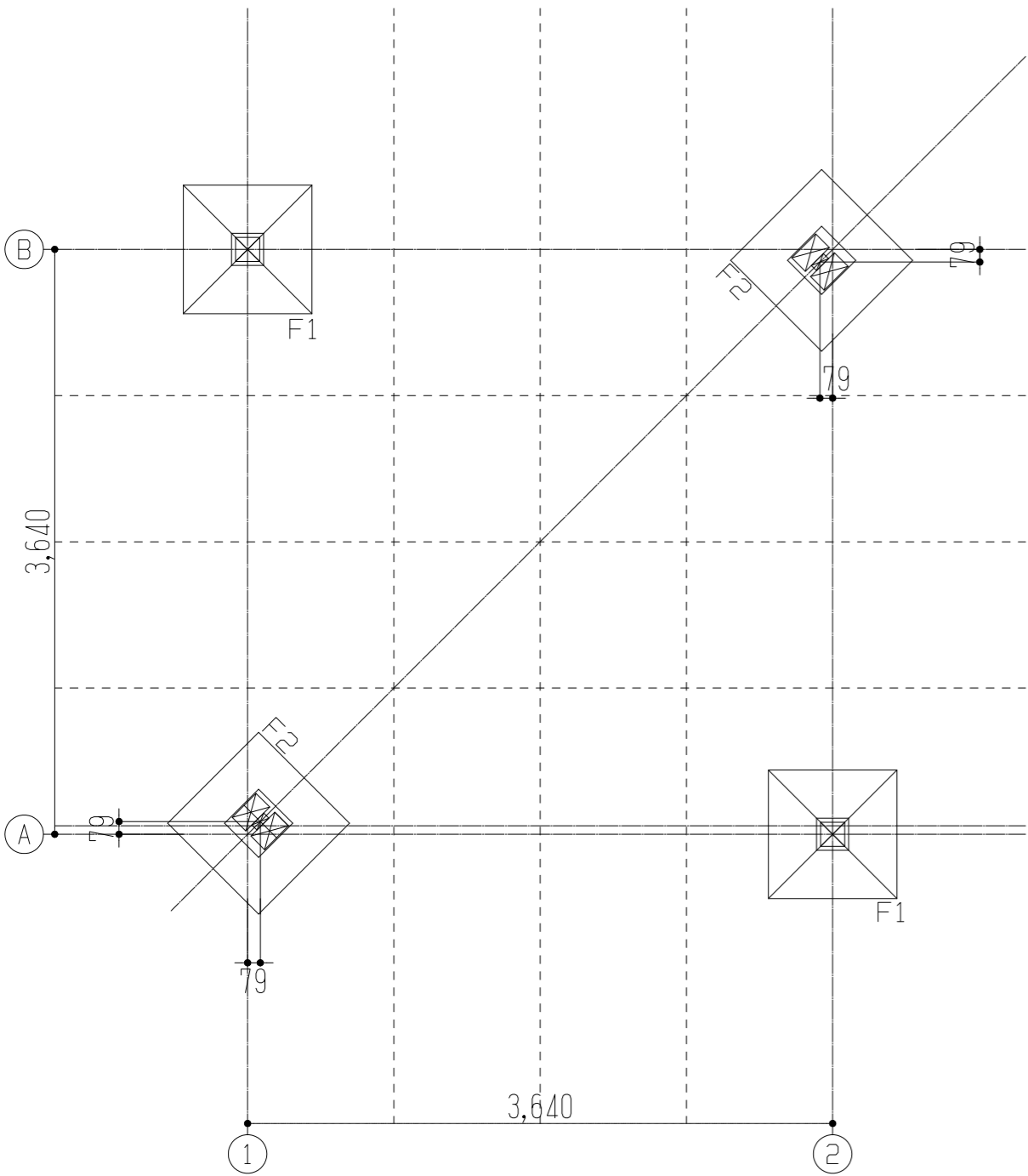
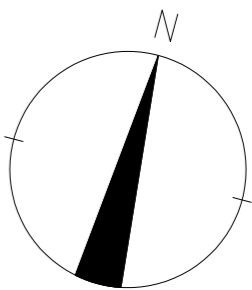
※ 注記  
・ボルト・ナットは、全てステンレスとする。  
・座板は、MEDウッド-Aとする。  
・製品は、(一社)日本公園施設業協会  
・団体賠償責任保険に加入した製品とする。  
・コンクリート脚下部基礎は、ベンチ脚下部基礎と同様の仕様とする。



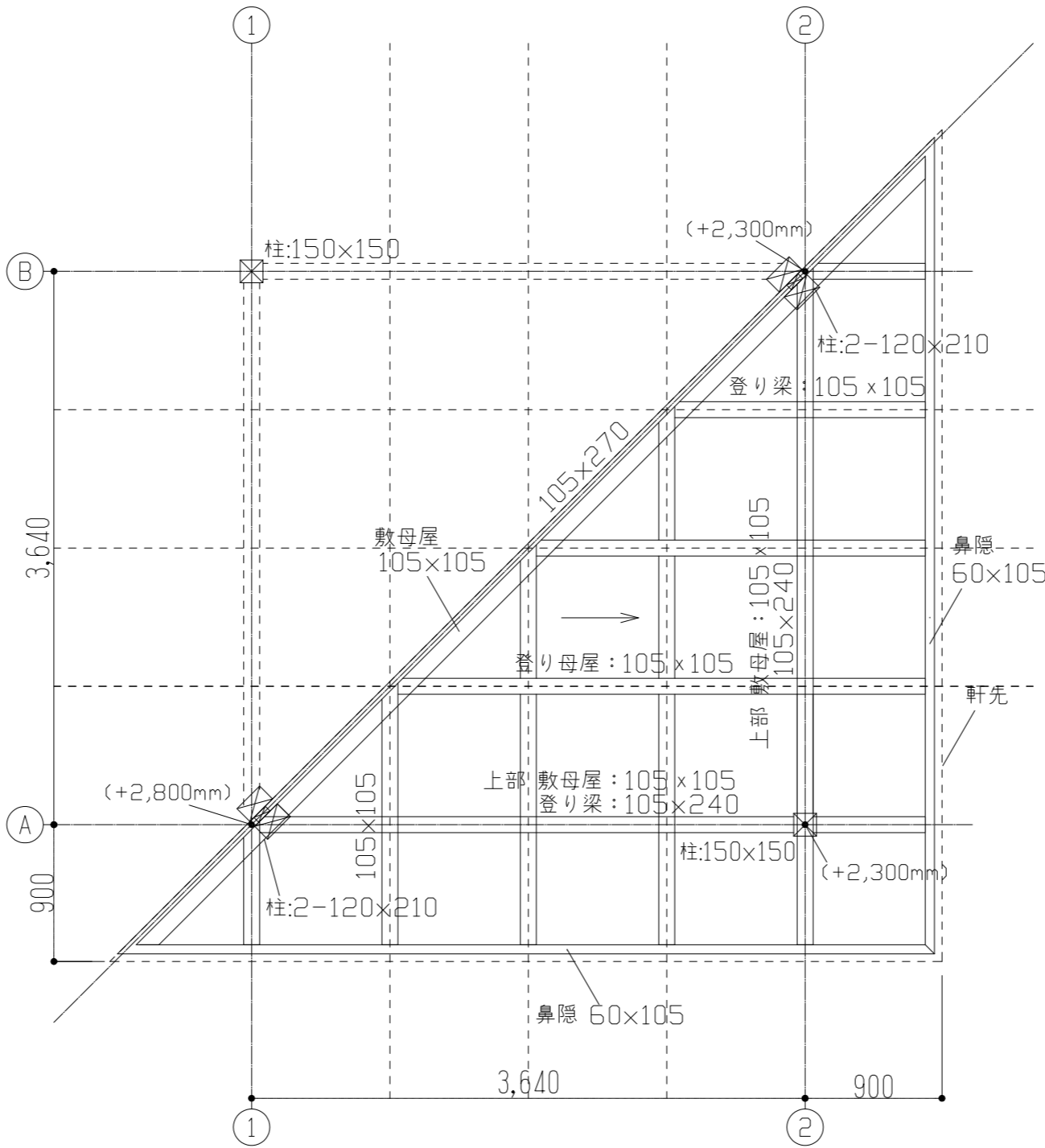
※ 注記  
・アクセントポールの取付高・配置は、現場調整とする。



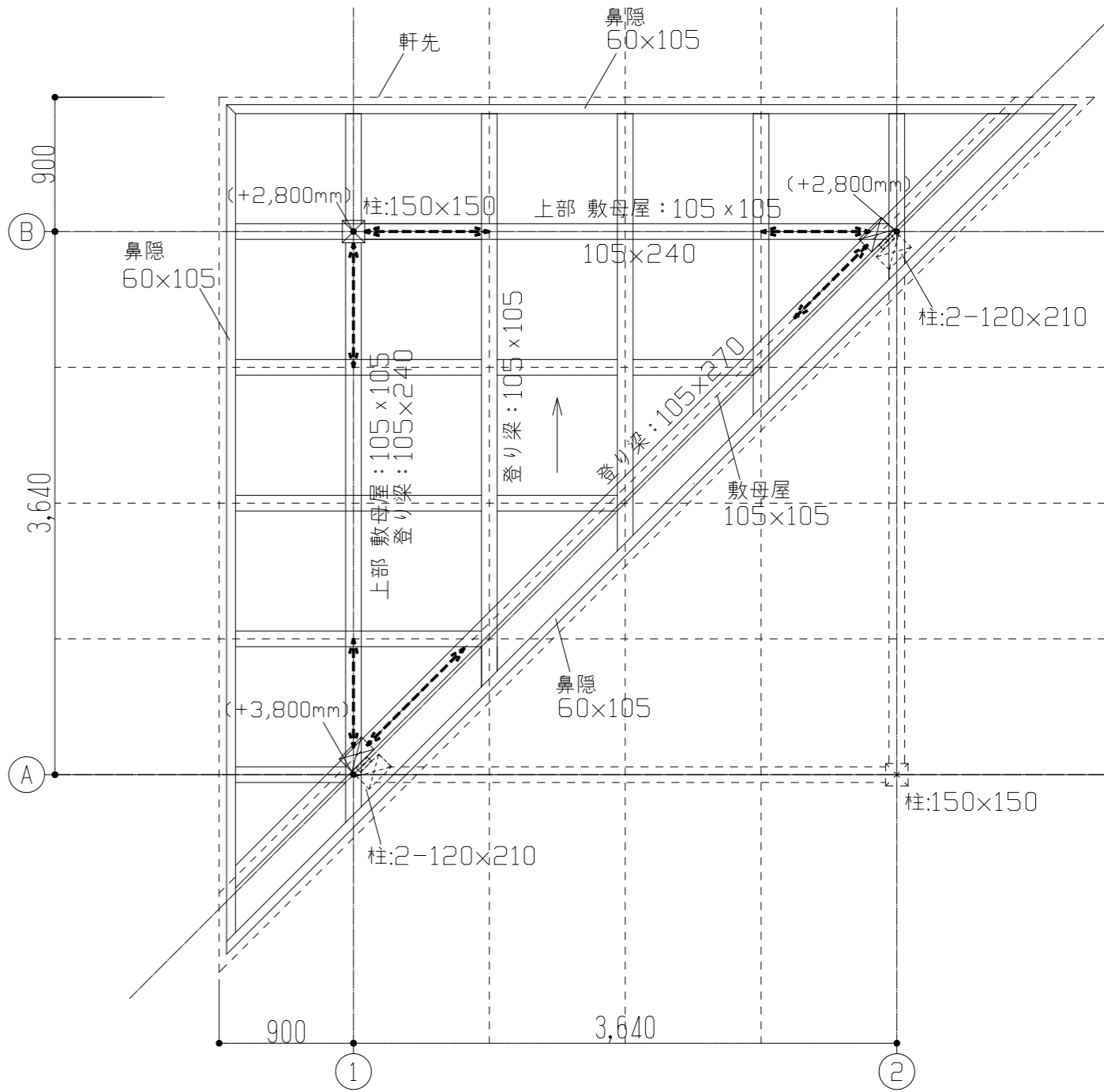
特記事項  
・木材：杉\*（含水率20％以下）  
・コンクリート：F<sub>C</sub>=21N/mm<sup>2</sup>  
・鉄筋:SD295  
仕様は「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年度版」を参照。



基礎伏図 S=1:40




屋根伏図(1) S=1:40



屋根伏図(2) S=1:40

※凡例  
・記入なき梁 = 105×105

※凡例  
・記入なき梁 = 105×105  
・ : 方杖 90×90

Y+方向  
X+方向

柱位置図 S=1:20

縮尺 A2:100%  
A3:70.7%

海陽町

設計 R7.12

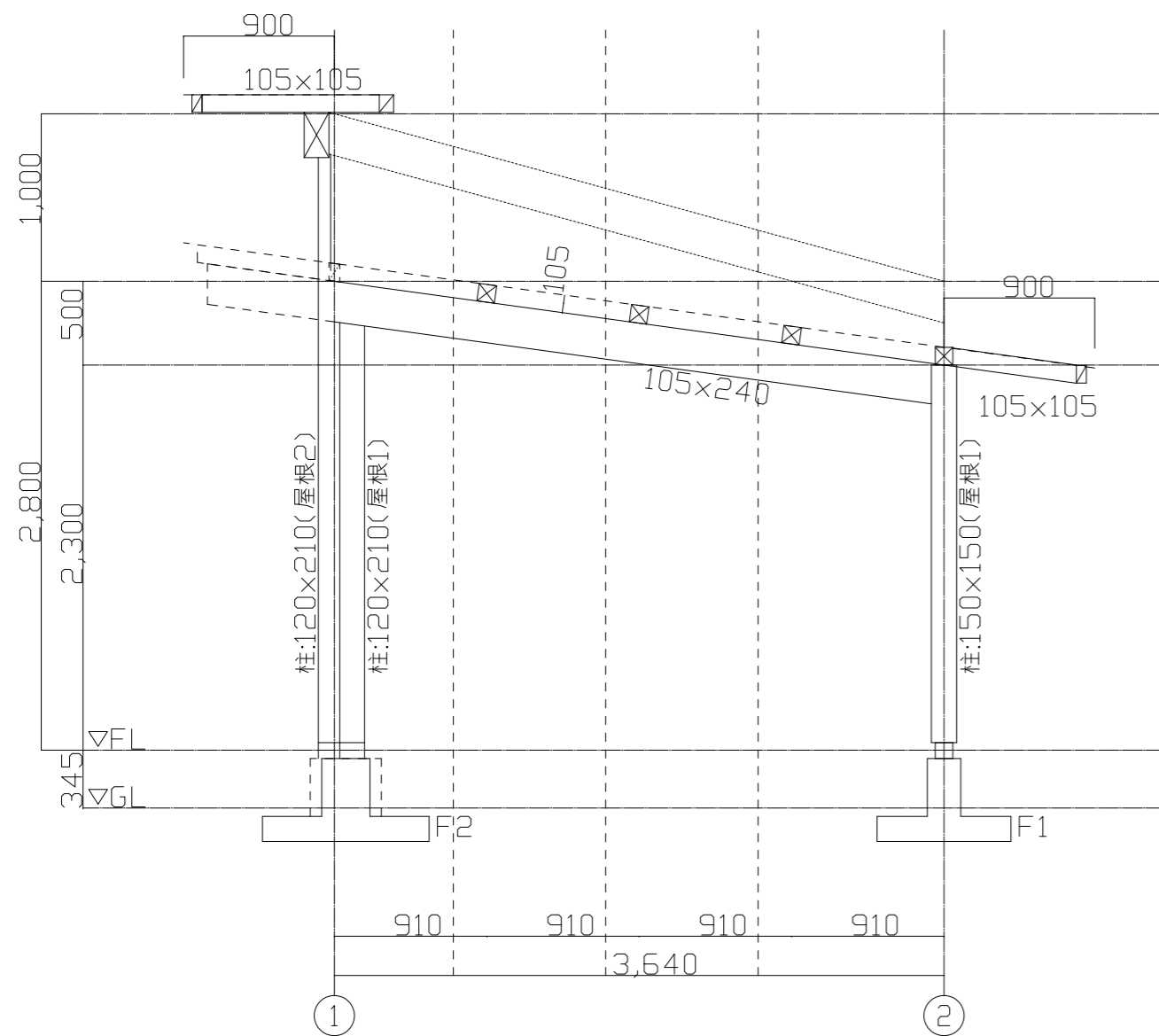
竣工

工事名称 R7年度 竹ヶ島四阿新設工事

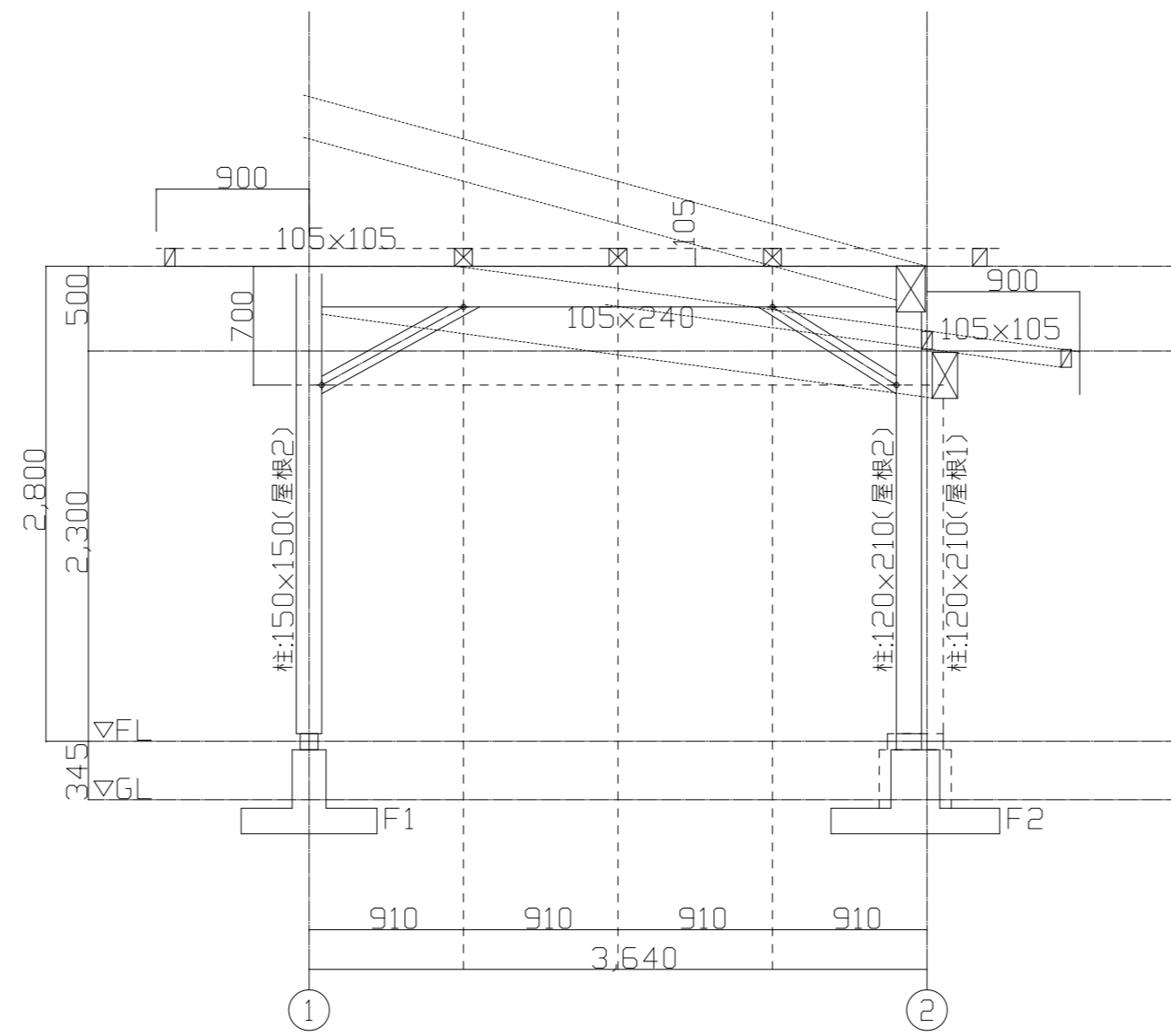
図面名称 伏図

図面番号 S - 01

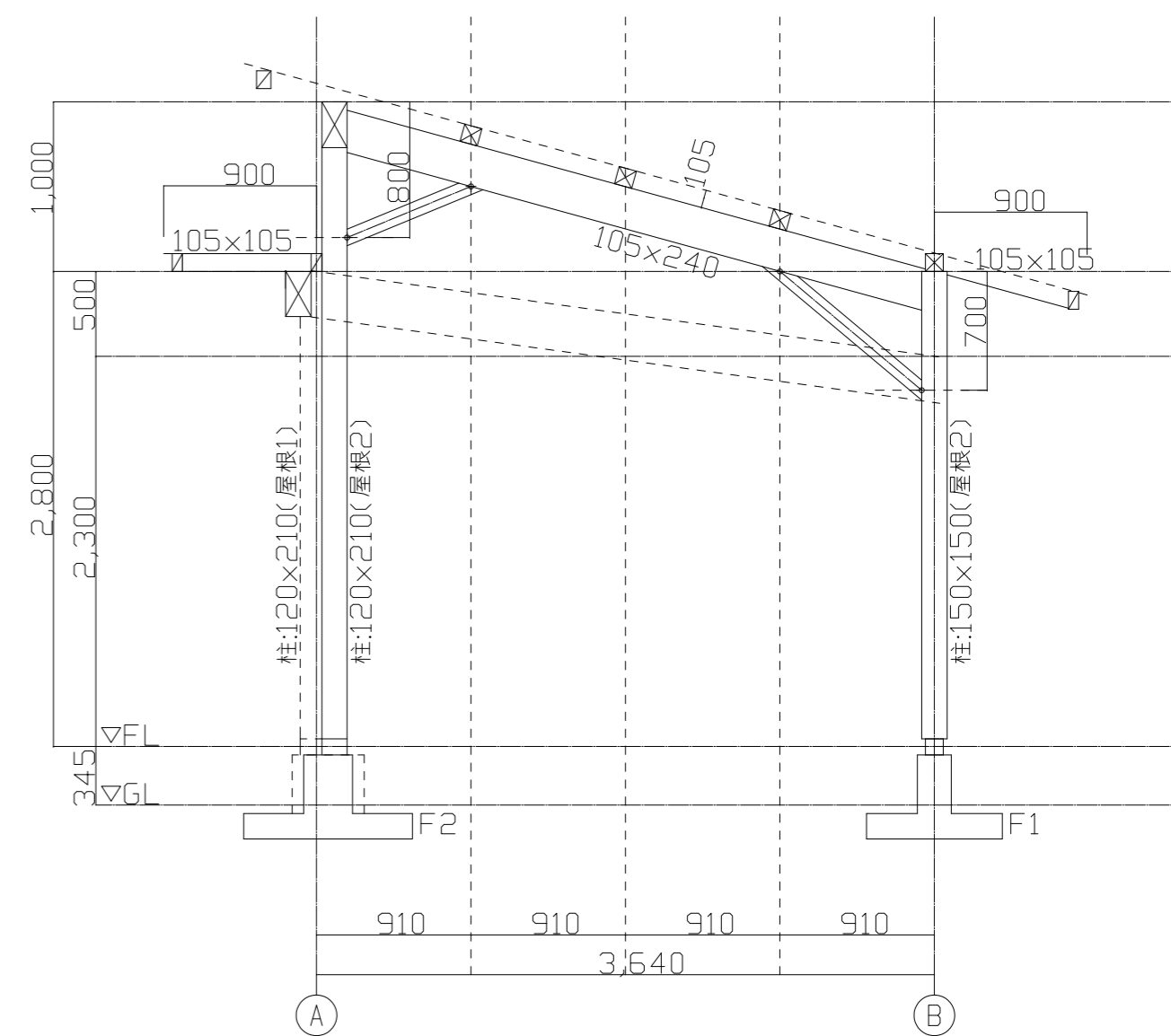
縮尺 1:40



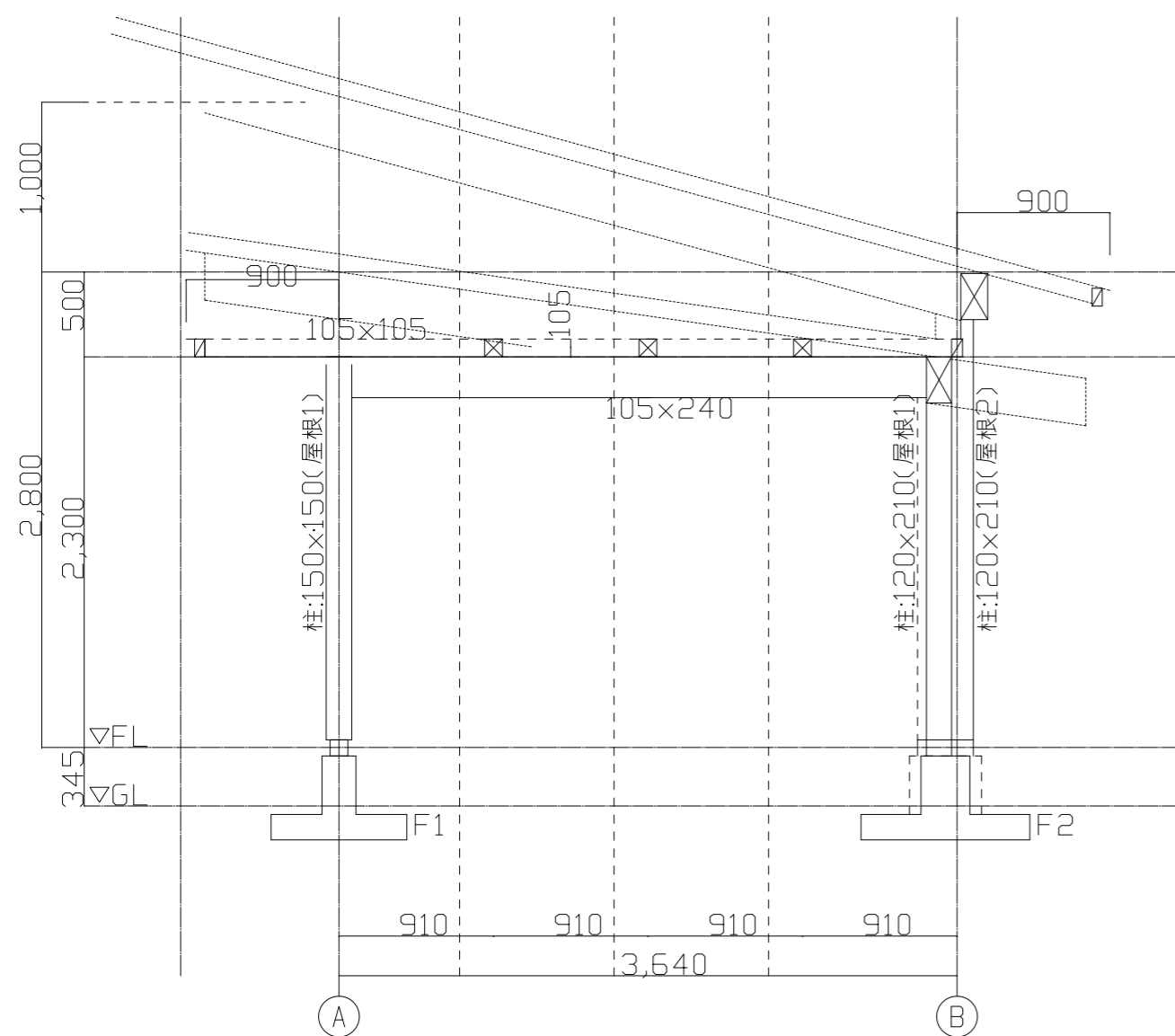
A軸組図 S=1:40



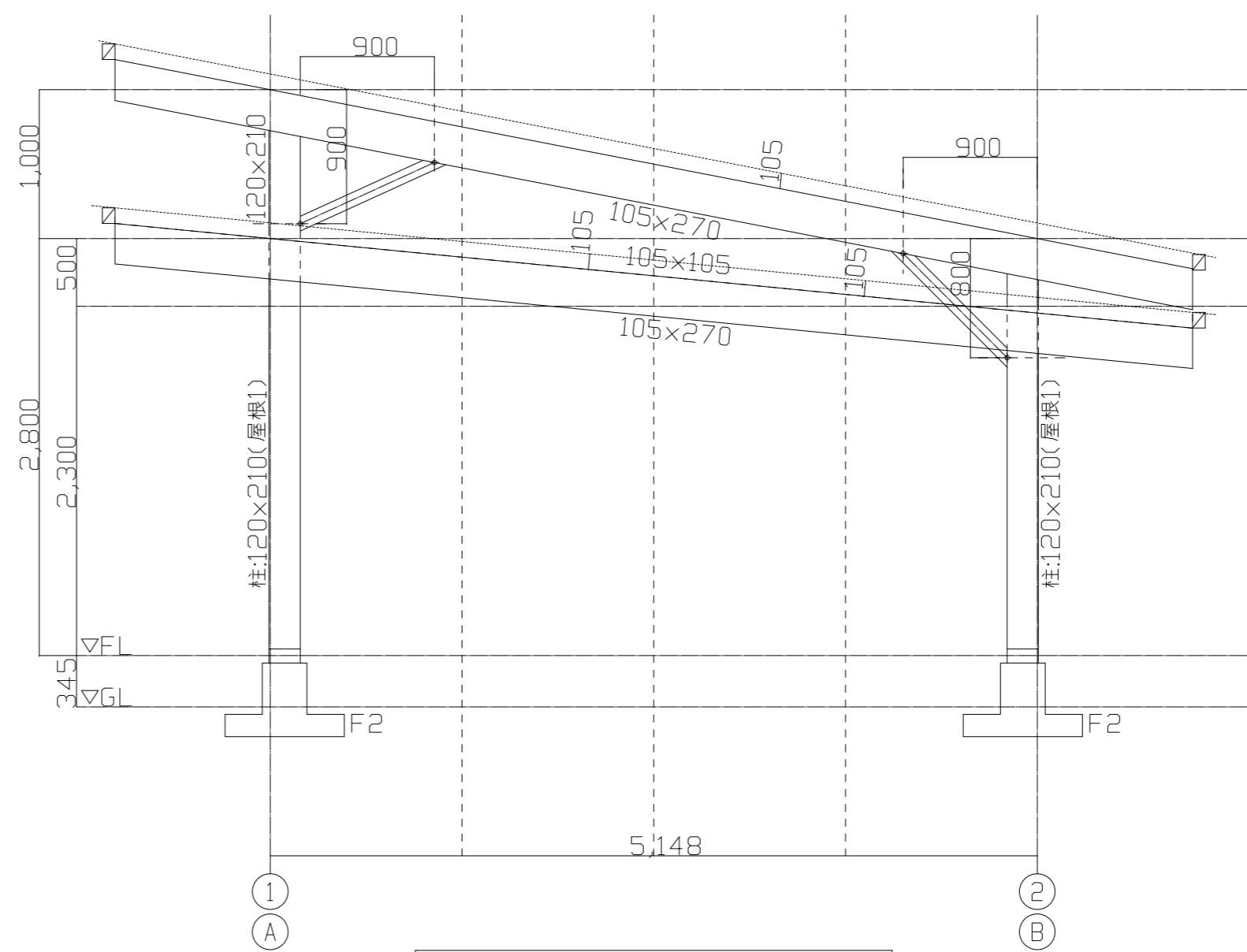
B軸組図 S=1:40



1軸組図 S=1:40



2軸組図 S=1:40



水上-水下軸組図 S=1:40

縮尺 A2:100%  
A3:70.7%

海陽町

工事名称 R 7年度 竹ヶ島四阿新設工事

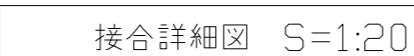
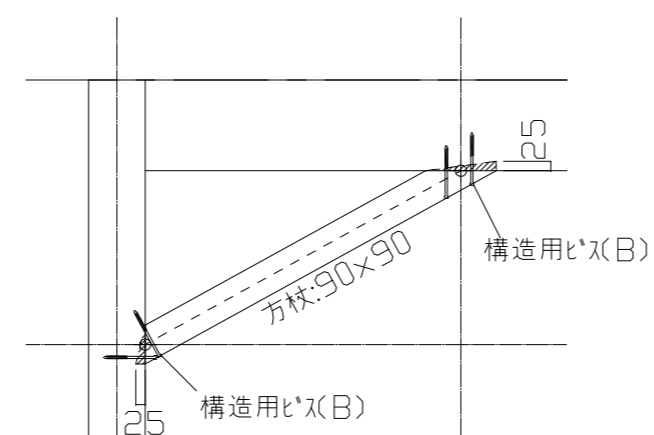
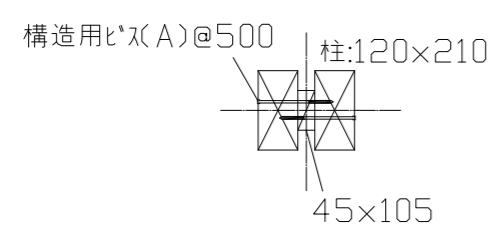
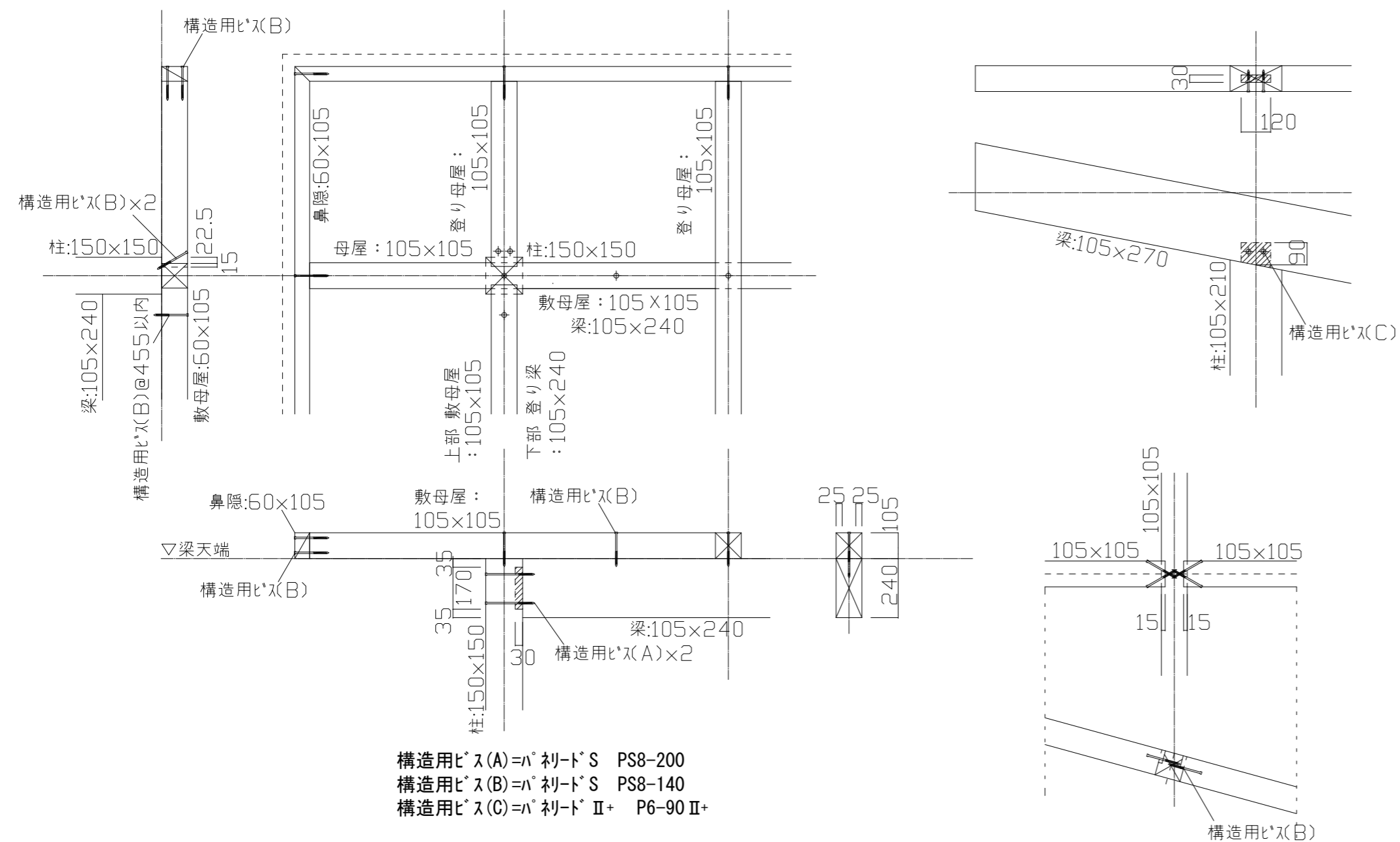
図面番号 S - 02

設計 R7.12

竣工

図面名称 軸組図

縮尺 1:40



構造用 $\beta$ ス(A)= $\beta$ ・ネー・トS PS8-200  
 構造用 $\beta$ ス(B)= $\beta$ ・ネー・トS PS8-140  
 構造用 $\beta$ ス(C)= $\beta$ ・ネー・トIS+ P6-90IS+

